

信頼される安心を、社会へ。

**SECOM**



**セコム株式会社**

# CSRレポート2014

Corporate Social Responsibility Report



## 「社会システム産業」の構築をめざして

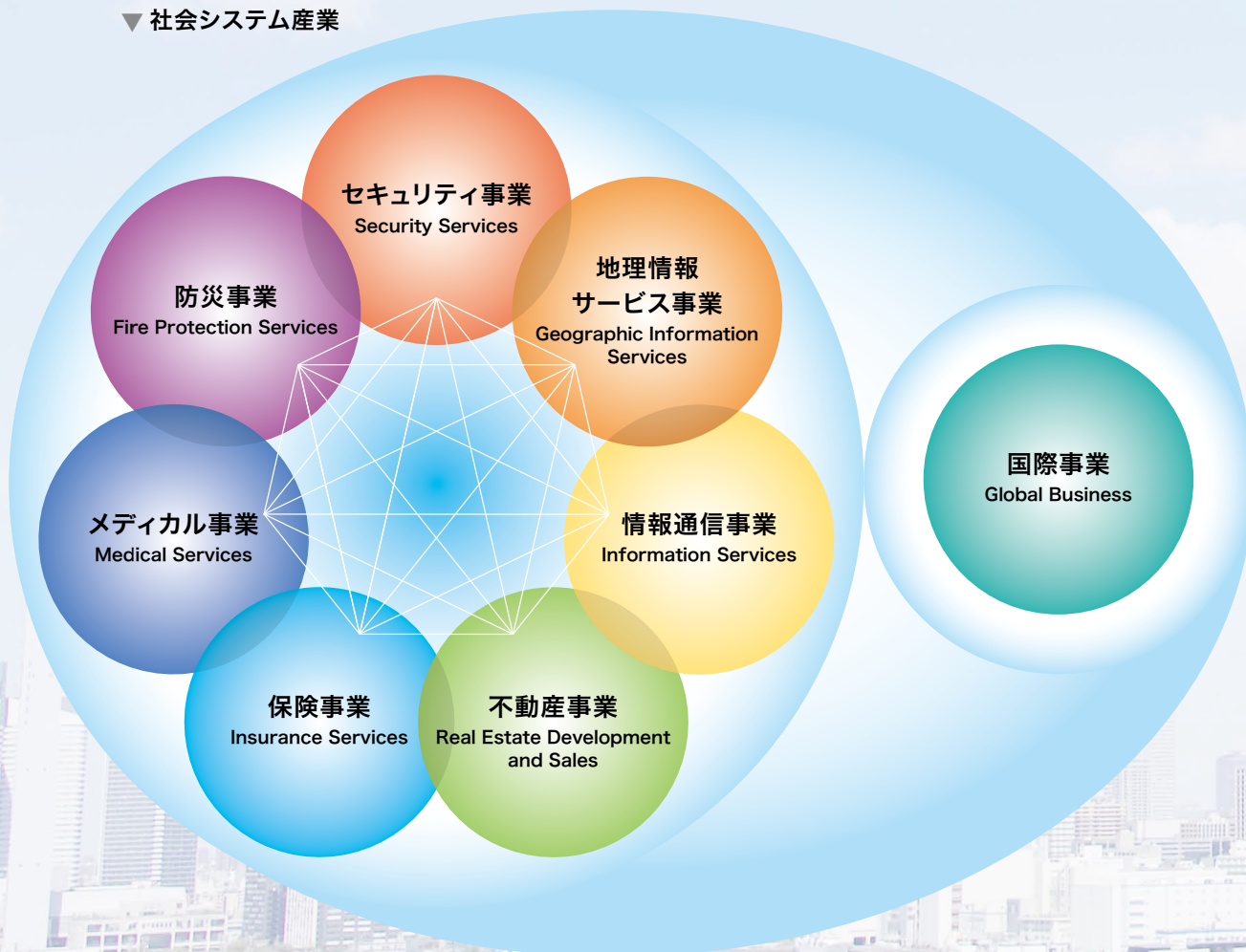
セコムは、1989年に「社会システム産業」の構築をめざすことを宣言し、その実現に向かってまい進しています。「社会システム産業」とは、社会で暮らすうえで、より「安全・安心」で、「快適・便利」なシステムやサービスを創造し、それらを統合・融合させ、社会になくはならない新しい社会システムとして提供するものです。

セコムの事業領域は、セキュリティ、防災、メディカル、保険、地理情報サービス、情報通信、不動産事業と多岐にわたり、海外にも進出し、事業を展開しています。

セコムは、「社会システム産業」を構築するために、これらの事業領域のサービスを複合的に組み合わせたセコムならではのシステムやサービスの開発・提供に取り組んでいます。それにより、「いつでも、どこでも、誰もが「安全・安心」に暮らせる社会」を実現し、セコムのさまざまなサービスが社会に浸透することで、「気づいたらセコム」と言われるような企業グループをめざしています。

セコムは、2010年に“ALL SECOM”（セコムグループの総力の結集）を宣言しました。社員が情報や目標を共有しながら、一丸となって各事業の連携を深め、グループの総合力を最大限に発揮することで「社会システム産業」の構築を加速していきます。具体的には、「セキュリティ」「超高齢社会」「災害・BCP（事業継続計画）・環境」を切り口に、ビッグデータを活用して、セコムならではのサービスを創出していきます。

### ▼ 社会システム産業



## 編集方針

セコムは、2009年から環境報告書を発行し、2013年に組織統治、消費者課題、人権、労働慣行などの社会性報告を拡充して「CSRレポート」としました。本年の「セコム株式会社 CSRレポート2014」は、セコムのCSR（企業の社会的責任）への考え方や概要と重点トピックスに絞った報告として作成し、取り組みの詳細や各種データは、セコムのWebサイト「CSRへの取り組み」\*に掲載することとしましたので、ぜひそちらもご覧ください。

これからも、ステークホルダーの皆様からの情報開示要請にお応えするために、各種ガイドラインなどを参考にわかりやすくタイムリーな情報発信に努めていきます。

\*Webサイト「CSRの取り組み」  
<http://www.secom.co.jp/corporate/csr/report/>

### ■ 報告対象組織 セコム株式会社

「セキュリティ事業グループ」と表示している場合は下記26社です。また、「セコムグループ」と表示している場合は他の事業会社を含めています。

#### ▶セキュリティ事業グループ

- |                   |                  |
|-------------------|------------------|
| ●セコム(株)           | ●セコムジャスティック山梨(株) |
| ●セコム上信越(株)        | ●セコムジャスティック山陰(株) |
| ●セコム北陸(株)         | ●セコムジャスティック高知(株) |
| ●セコム山梨(株)         | ●セコムジャスティック宮崎(株) |
| ●セコム三重(株)         | ●セコムスタティック北海道(株) |
| ●セコム山陰(株)         | ●セコムスタティック東北(株)  |
| ●セコム高知(株)         | ●セコムスタティック関西(株)  |
| ●セコム宮崎(株)         | ●セコムスタティック西日本(株) |
| ●セコム琉球(株)         | ●セコムスタティック琉球(株)  |
| ●セコム佐渡(株)         | ●セコムテクノ上信越(株)    |
| ●セコムジャスティック(株)    | ●セコムテック山陰(株)     |
| ●セコムジャスティック上信越(株) | ●セコムアルファ(株)      |
| ●セコムジャスティック北陸(株)  | ●セコム工業(株)        |

### ■ 報告対象期間

2013年度（2013年4月1日～2014年3月31日）

一部、この期間前後の取り組みも含まれます。

### ■ 発行時期 2014年10月（次回：2015年10月）

### ■ 参考ガイドラインなど

- GRI「サステナビリティレポーティングガイドライン 第4版」
- 環境省「環境報告ガイドライン2012年版(平成24年4月)」
- ISO26000/JIS Z 26000

### ■ お問い合わせ先 セコム株式会社

社会・環境推進部

TEL：03-5775-8518 E-mail：csr@secom.co.jp

コーポレート広報部

TEL：03-5775-8210 E-mail：media@secom.co.jp

信頼される安心を、社会へ。

**SECOM**  
セコム株式会社

CSR Report 2014

## Contents

〈目次〉

セコムグループのビジョン	1
目次、編集方針	2
トップメッセージ	3
セコムの理念	4
セコムのCSRと マテリアリティ(重要課題)	5
<b>戦略的CSR</b>	7
～社会課題の解決に向けて～	
事業を支える経営基盤 〈技術力・人財・オペレーション体制〉	
<b>Part 1 セキュリティ</b>	
<b>Part 2 超高齢社会</b>	
<b>Part 3 災害・BCP・環境</b>	
<b>基盤的CSR</b>	13
～社会から信頼される企業として～	
お客様とともに 〈消費者課題〉	13
社員とともに 〈人権・労働慣行〉	15
地球環境とともに 〈環境〉	19
地域・社会とともに 〈コミュニティへの参画及びコミュニティの発展〉	23
コーポレート・ガバナンス 〈組織統治・公正な事業慣行〉	25
セコムグループの概要	29

# トップメッセージ

## 「安全・安心」をベースに 「快適・便利」を実現

セコムは、1962年に日本初の警備保障会社として創業しました。以来、「社業を通じ、社会に貢献する」という企業理念のもと、常に世の中に先駆けた新しいシステムを開発し、社会の安全化に努めてきました。

日本の社会が高度化・情報化・国際化を始めた時代の1989年に、セコムは「社会システム産業」の構築を宣言しました。現在セコムグループでは、セキュリティ、防災、メディカル、保険、地理情報サービス、情報通信、不動産の7つの事業を展開していますが、その中心にはわが国最大クラスのデータセンターがあり、グループの総力を結集する活動である“ALL SECOM”で「社会システム産業」を加速させるべく取り組んでいます。

また、日本国内で培ったノウハウを海外でも生かして、誰もが安心して暮らすことができる、快適で便利な社会を創ることを使命に、海外21の国と地域に進出しており、“信頼される安心を、社会へ。”というコーポレートメッセージを具現化するために、セコムグループならではの「安全・安心」のサービスを世界へ提供しています。

## 大きく変貌する社会動向を見据えて

日本は2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向け、経済も社会も大きく変貌を遂げようとしています。セコムグループでは、「セキュリティ」「超高齢社会」「災害・BCP・環境」の3つの分野を切り口にして、新たなサービスやシステムの創出に努め、高度化・多様化する社会のニーズに応えていきたいと考えています。

セコムの強みは、「高度な技術力」「よく訓練されたプロフェッショナルな人財」「オペレーション体制」にビッグデータ・情報通信基盤を組み合わせた「安全・安心」のサービスを提供できることです。これからも「世の中にない」「社会に役立つ」サービスやシステムの創出に、果敢に挑戦していきます。



セコム株式会社 代表取締役社長

## 伊藤 博

## セコムのCSRの取り組みについて

セコムは、経済面、社会面、環境面の活動を通じて「企業と社会が共に持続的に発展することが重要である」という考え方を根底におき、創業以来、事業を通じて社会・環境課題の解決に努めてきました。この企業と社会が持続的に発展するという考え方は、社会的責任に関する国際規格であるISO26000が示す目標でもあります。

社会への説明責任を果たすため、セコムでは2009年から環境に対する責任と取り組みを「環境報告書」としてまとめてきましたが、2013年からは、組織統治、消費者課題、人権、労働慣行などの社会性報告も含め、すべてのステークホルダー\*1の皆様に向けた「CSRレポート」としてご報告しています。

今後もISO26000が定める中核主題\*2も経営の念頭におき、セキュリティ事業のパイオニアとして長年培ってきた強力なコンプライアンス体制を基盤に、“ALL SECOM”を推進していきます。そして「社会システム産業」を飛躍的に発展させ、ますます高まる社会からの期待と信頼にお応えしていきます。

\*1：ステークホルダー…企業が経営活動を行っていくうえでの利害関係者のこと。具体的には、お客様、株主、お取引先、社員、地域社会などが挙げられます。

\*2：中核主題……………ISO26000で示される“組織統治・人権・労働慣行・環境・公正な事業慣行・消費者課題・コミュニティへの参画及びコミュニティの発展”の7つの主要課題のこと。

## セコムの理念

セコムには、社員が常に生き生きとし、組織の力を十分に発揮できるようにするために、創業以来脈々と受け継がれている理念や考え方があります。

代表的なものは、進歩に対する意欲を持ち、現状を打破することで独創的なシステムやサービスを創出する「現状打破の精神」、セコムにとってではなく社会にとって正しいか、公正であるかを判断基準にする「正しさの追求」で、これらの理念の浸透が、セコムの成長・発展の大きな原動力となっています。

また、お客様からの信頼をいただくために、セコムでは法ならびに法の精神を遵守し、法令で一般に定めるものよりさらに厳しい、セコム社員としての心得および行動基準を定めています。

### ■「セコムの事業と運営の憲法」

セコムの基本理念である「社会に有益な事業を行う」を常に考えの根底にすえて、事業を行っていくために、セコムグループが実施すべき事業方針を定めています。

### ■「運営基本10カ条」

「セコムの事業と運営の憲法」を土台として、セコムが「社会システム産業」として発展をするために、そして組織の風土が常に革新的であり、濁りのない清冽せいらつなものであり続けるために、あるべき考え方、あるべき姿を、運営の基本方針として定めています。

### ■「セコムの要諦」

1962年の創業以来培われたセコムの行動原理を基盤として、セコムグループの発展と社員の人的成長を達成するための共通の理念を定めています。

### ■「セコムグループ社員行動規範」

「セコムの事業と運営の憲法」「セコムの要諦」とともに、コンプライアンスの面からみて、いつの時代にも通用する普遍性を持つものとして制定されました。

「セコムグループ社員行動規範」には、セコムグループすべての社員のあるべき姿およびあらゆる業務の根底にあるコンプライアンスに関する考え方が規定されており、社会、お客様、お取引先などとの関係における心得や具体的に遵守すべき行動基準が明記されています。

### 「セコムの理念」(白本)で理念を共有

創業以来、セコムグループの基本的な考え方やあるべき姿、行動原理として培われてきた「セコムの理念」を、「セコムの事業と運営の憲法」「セコムの要諦」などとともハンドブックとしてまとめて、全社員に配布しています。表紙が白いことから、「白本」の愛称で社員に親しまれています。

「セコムの理念」は、社内報「セコミティー」の巻頭でも毎回取り上げ、理念の共有と実践を徹底させています。



### 世界に広がる「セコムの理念」

海外でも日本と同じ高いレベルの「安全・安心」を提供するためには、マニュアルや規則どおりに業務を行えばよいのではなく、なぜそうするのかという基本的な考え方を理解して取り組むことが重要です。

そこで、「セコムの理念」や「セコムグループ社員行動規範」を各国の言語に翻訳して、組織の一人ひとりに浸透させています。





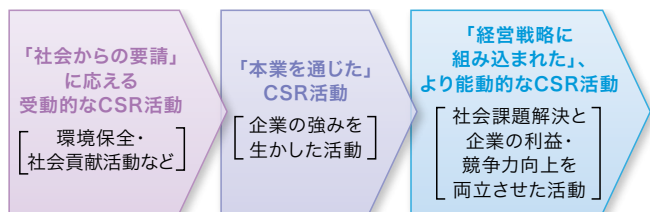
# セコムのCSRとマテリアリティ（重要課題）

セコム株式会社 常務取締役 中山泰男

## 1 CSV\*（企業と社会の共有価値創造）の流れの定着

\*CSV…Creating Shared Value

「日本のCSR経営元年」といわれる2003年から10年を経て、「企業と社会の持続的成長を狙いとしてCSRを能動的に経営戦略に組み込む」CSVの考え方が定着してきました。



この考え方は、先進的なグローバル企業などで早くから使われていましたが、マイケル・ポーター米ハーバード大学教授が打ち出した後、2011年に欧州委員会（EU）が競争力向上を図るための新CSR戦略として、CSRの定義にこの考え方を組み入れたことの影響が大きいと思います。

## 2 セコムのCSV

このCSVの基本コンセプトは、顕在化した、もしくは顕在化しつつある顧客ニーズを社会課題として捉えてビジネス化し、新しい市場を創造することですが、これはセコムが創業以来続けている事業活動そのもので、たとえば次のような形で具現化しています。

### 事例1 位置情報提供システム「ココセコム」

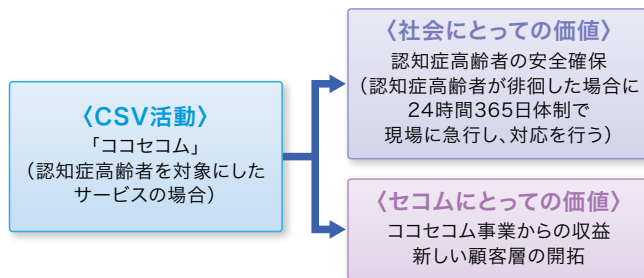
～社会課題「認知症高齢者の安全確保」に貢献～

セコムは、GPS（全地球測位システム）衛星と携帯電話基地の電波を利用した日本初の本格的な位置情報提供システム「ココセコム」を2001年から提供しています。最新の位置検索技術とセコムが培ったオンライン・セキュリティシステムのサービスネットワークを融合させ、人・車・物の位置検索にとどまらず、行方不明や盗難が発生した際には全国の緊急発進拠点から緊急対処員が24時間365日現場に急行するサービスを提供し、社会課題のひとつである認知症高齢者の安全確保に貢献しています。

セコムの理念は、「社業を通じ、社会に貢献する」ことが基本で、「セコムにしかできない（差別化）」「常に革新的（イノベーション）」が加わり、この「ココセコム」が誕生し、「いつでもどこでも誰にでも安全を提供する」サービスが実現しました。その後「ココセコム」を標準装備した子供用携帯電話「mamorino（マモリーノ）」や、セキュリティと介護

サービスを一体化した高齢者向け救急時対応サービス「セコム・マイドクタープラス」など、進化した商品が誕生しています。

※10、14ページをご参照ください。



出典：野村総合研究所「CSV事業の先進事例分析」

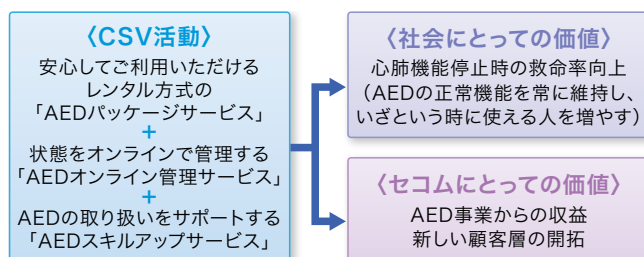
### 事例2 いつでも安心して使えるAEDの普及をめざして～社会課題「心肺機能停止時の救命率向上」に貢献～

AEDが一般の方でも使用できるようになった2004年から、セコムはAEDの普及に取り組み、ご契約台数は国内トップクラスの約9万1,000台となりました。(2014年6月末現在)

セコムでは、導入しやすく機能維持に必要なサービスをパッケージしたレンタル方式「セコムAEDパッケージサービス」を基本に、AEDを監視して常に万全の状態を保つ「セコムAEDオンライン管理サービス」も付加できるようにし、いつでも安心して使用できるAEDの提供に努めてきました。

現在では、数多くのAEDが公共の場や企業に設置されるようになりましたが、一般市民による使用率が低く、社会問題化しています。そこで、セコムでは「AEDが安心して使われる社会」の実現のために、“いざという時に有効に使える人”を育成する「セコムAEDスキルアップサービス※」を開始しました。

※24ページをご参照ください。

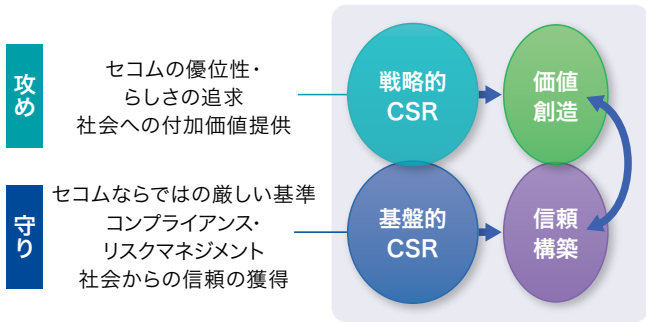


## 3 セコムのCSRの体系

～戦略的CSRと基盤的CSR～

セコムのCSRへの取り組みはCSVではありません。セコムでは、社会および環境に及ぼすプラスの影響を大き

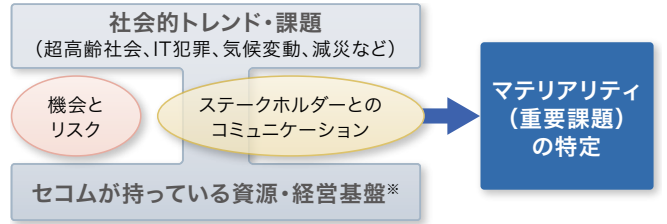
くするCSVへの取り組みを「戦略的CSR」と定義し、加えてこれを生かすためのコンプライアンスなど社会的信頼獲得の土台となるCSRを「基盤的CSR」と定義し、2階建ての体系で実践しています。



#### 4 マテリアリティの特定

それでは、攻めと守りのCSRを経営に組み込んで実践していくにあたってのマテリアリティ（重要課題）を特定するプロセスについて触れたいと思います。

セコムでは、さまざまな社会課題をセコムの経営資源に照らし、ステークホルダーの皆様からの意見や期待を踏まえた次のようなプロセスでマテリアリティの特定を行いました。



※革新的なシステムを生み出す高度な「技術力」、セコムの理念を共有する「人財」、全国を24時間365日カバーする「オペレーション体制」、ビッグデータを安全に管理する「データセンター」など

2013年度のセコムのマテリアリティは、

**戦略的CSR** 「セキュリティ」「超高齢社会」

「災害・BCP・環境」

**基盤的CSR** 「組織統治・公正な事業慣行」

「人権・労働慣行」「環境」「消費者課題」

「コミュニティへの参画及びコミュニティの発展」

で、これらをまとめると、下図の通りとなります。

今後の課題としては、このマテリアリティのそれぞれにKPI（主要業績評価指標）を設定し、PDCAサイクルを実践していくと考えています。

本報告書では、セコムのCSRへの取り組みの具体的な内容を7ページ以降に記載しておりますので、ぜひ最後までご覧ください。



CSVの定着と歩調をあわせるように、ESG投資の流れがメインストリームとなりつつあります。セコムの年金資産運用者であるセコム企業年金基金は国連責任投資原則(国連PRI)に署名し、ESG投資を早くから実施しています。28ページのコラム「セコム企業年金基金によるESG投資の取り組み」もあわせてご参照ください。

# “ALL SECOM”でビッグデータの有効活用を図り、社会で新たに必要となるサービスの創出・提供を加速

セコムグループ(以下、セコム)は、「セキュリティ」「超高齢社会」「災害・BCP・環境」という切り口で、社会的課題、困りごと、日常の不安を“ALL SECOM”の観点で解決すべく、収集したビッグデータを基に、セコムならではの新しいシステム・サービス・商品を創出し、提供を行っています。

セコムが新たなサービスを創出する際には、今後の社会の変化を見据えて、どのようなサービスが求められているか、また社会が求めるサービスを実現するためには、どのような事業インフラや技術が必要なのかを重視して

います。また、その判断基準は「社会にとって有益で、セコムが実施するのが最適かどうか」という点にあります。

今後も社会に不可欠で、まだ実現できていないサービスを開発・提供することがセコムの使命であると考えています。

そして、ビッグデータ活用のインフラであるデータセンターを全事業の中核に据えることで、新たなニーズを先取りしたサービスの創出に積極的に取り組み、さらなる成長をめざしていきます。

## セコムの事業を支える3つの経営基盤

セコムの経営基盤の中で、競争力の源泉として位置付けているものが大きく3つあります。それが「技術力」「人財」「オペレーション体制」です。

### 1 「技術力」—時代のニーズをサービスに変換する研究・開発—

進化し続ける時代、高度化し多様化する社会、これら为先取りした次世代の「安全・安心」を創造するため、最先端の研究部門として、「IS研究所」があります。

セキュリティのパイオニアとして培ったさまざまな技術を基盤として、「社会システム産業」を実現するための、将来のコア技術の創出に取り組んでいます。さらに、営業部門や業務部門と連携を密にすることで、社会の変化の波頭に立つセコムならではの、革新的なシステムやサービスを生み出す、未来を切り拓く高度な先端技術の研究を行っています。

そして、それらの基盤技術を生かし、身近なお客様の声を反映させた独創性と信頼性の高い実用的なシステムを開

発しているのが「開発センター」です。

セコムでは「技術力」を、市場で競争優位を確保する上で、重要な経営資源のひとつと捉えており、社会・犯罪・技術動向を見据えながら、常に最新技術を駆使したシステムの開発をめざしています。

また、グループ全体では約2,500人の研究開発スタッフがあり、それぞれの技術を融合するトータルな研究開発体制を取っています。



独創性と信頼性の高いシステムを生み出す「開発センター」

### 2 「人財」—組織のため、個人の能力を開発する人材育成—

企業理念である「社会にとって有益な事業を行う」「常に革新的である」「正しさを追求する」という思いを継承するために、セコムでは独自の教育・研修体系を確立し、能力開発の拠点を構築してきました。それらが、東京都(多摩)、静岡県(御殿場)、三重県(名張)、熊本県(阿蘇)の全国4カ所にある人材開発センター「セコムHDセンター」です。

「HD」とは、ヒューマンデベロップメントの略であり、事業の根底を支える理念の浸透、モラルの醸成など「社会システム産業」の確立を担う人材の育成を目的に、新入社員から幹部社員までを対象に、年間約230コースの研修を実施しています。

組織のために個人の力に磨きをかけることが、質の高いサービスの提供に結びついています。



### 3 「オペレーション体制」—質の高いサービスを提供する体制—

セコムでは、データセンターをベースに各種サービスを24時間365日迅速にご提供するためのオペレーション体制が構築されています。

セコムのオペレーション体制の中核に位置するのが、全国47都道府県に配置された「セコム・コントロールセンター」で、業界最多の全国約2,830カ所の緊急発進拠点に緊急対処員の出動を要請します。センサーなどのセキュリティ機器を活用しながら、緊急対処など人間の判断力や応用力が必要となる部分は、高度な訓練を積んだ社員が対応します。



オペレーションの中核を担う「セコム・コントロールセンター」



「セコムナースセンター」

さらに位置情報提供システム「ココセコム」を通じて、お客様を見守る「ココセコムオペレーションセンター」や、セコムが展開するさまざまな医療系サービスを看護師が24時間体制で支える「セコムナースセンター」などもあります。

最大のポイントは、これらをすべて自社で運営していることです。共通の基盤であるデータセンターの上に、独自のオペレーション体制があるからこそ、プロフェッショナルな組織が連携し、迅速かつ正確に最適な判断を行うことによる質の高いサービスを可能にしています。

## サービスの中核拠点である国内最大クラスのデータセンター ビッグデータを蓄積する“ALL SECOM”に不可欠な情報基盤



データセンター

私たちの身の回りのあらゆるサービスは、情報を活用して提供されています。一見、優れたサービスも情報を安全に管理できる土台がなければ、サービス自体の品質が損なわれてしまいます。特にセキュリティや医療など、「安全・安心」を提供するサービスは、迅速で正確な情報処理がとても大切です。これらの情報は途切れることなく、厳格に管理されなくてはなりません。

さまざまな個人情報や安全に関わる情報を取り扱うサービスでは、「信頼」が欠かせません。そのために、セコムはデータセンターを自社で保有し、運営しています。2000年に開設した「セキュアデータセンター」は、大地震に備えた

免震構造で、安定して電源が供給できるよう、異なる2カ所の変電所から受電し、ネットワーク設備も二重化をしています。また、出入口からサーバー室まで館内のすべてに国内最高水準の厳格なセキュリティ対策が施されています。さらに2012年10月に、(株)アット東京がグループ入りしたことで、セコムは国内最大クラスのデータセンター事業会社となりました。

今後もますます複雑化する情報社会の中で、データセンターはセコムを支えるサービスの中核拠点であるとともに、ビッグデータ活用の基盤として、新たな付加価値創造の拠点となっています。



国内最高水準のセキュリティ対策

## 「セキュリティ」への取り組み

### ● 「セコム・ホームセキュリティ」が ご契約家庭100万軒を突破

セコムが、1981年に日本で初めての家庭用安全システムとして発売した「セコム・ホームセキュリティ」が、2014年度上半期に国内契約件数で100万軒を突破しました。

「セコム・ホームセキュリティ」は、住宅に設置したセキュリティ機器が侵入・火災・ガス漏れ・非常通報・救急通報を24時間365日監視し、センサーが異常を感知すると、異常信号を「セコム・コントロールセンター」へ送信する仕組みです。コントロールセンターでは、管制員が状況を確認し、最寄りの緊急対応員に急行の指示をするとともに、必要に応じて警察や消防にも通報します。

また、現在提供している「セコム・ホームセキュリティ G-カスタム」は、セキュリティ機能のみならず、運転免許証やパスポート、健康保険証などの身分証明書や薬の処方箋など、お客様の大切な個人情報をセコムのデータセンターでお預かりする「データお預かり機能」や、セコムが提供するサービスの申し込みができる「オンライン便利機能」、セコムと提携している企業がおお客様の生活に役立つ情報を提供し、お客様がサービス・商品を購入できる「マイページ機能」など、多彩な機能が付加されています。

家庭の安全を取り巻く環境は、時代とともに変化し、都市化や核家族化、超高齢化が進展する中、ホームセキュリティの需要は高まってきました。セコムでは、社会のニーズを先読みし、「安全・安心」に加え、暮らしを豊かにする「快適・便利」なサービスを提供していきます。



「セコム・ホームセキュリティ G-カスタム」

### ● 防犯機能と出入管理機能を一体化した 「セコムLX」

法人向けのオンライン・セキュリティシステムでも、セコムは幅広いラインアップでさまざまなニーズに応えていますが、防犯機能と出入管理機能を一体化し、お客様のコスト削減や省エネにも寄与する高付加価値システムの「セコムLX」を提供しています。

「セコムLX」は、侵入監視、火災監視、非常通報といった

防犯機能を標準装備し、出入管理機能では、ICカードをカードリーダーにかざすだけで入退室ができ、その履歴を自動で記録するので、企業は個人情報など大切な情報資産を守ることができます。

また社員証などのICカードをそのままセキュリティシステムの操作に使用できるほか、出退勤管理のサービスも提供しているため、お客様の労務管理の効率化を実現し、コスト削減にも結び付けることができます。

### ● 民間防犯用では世界初の 自律型「小型飛行監視ロボット」

2012年12月に開発した自律型「小型飛行監視ロボット」は、民間防犯用としては世界初となるロボットです。「レーザーセンサー」などのオンライン・セキュリティシステムと組み合わせることにより、敷地内に侵入してきた人や車のもとへ自律飛行を行い、最適な方向から対象に接近して撮影し、コントロールセンターに映像と位置情報を送信します。コントロールセンターの管制員は緊急対応員に急行を指示し、警察に通報します。

「小型飛行監視ロボット」には、セコムがこれまで培ってきた画像解析技術やセンシング技術、ロボット技術、追跡技術などが応用されています。今後、あらゆるセキュリティの技術やデータセンターと情報セキュリティの技術、グループ会社である(株)パスコの空間情報の処理・解析技術など、“ALL SECOM”の技術とノウハウを結集し、2014年度中の実用化をめざしています。



自律型「小型飛行監視ロボット」



セコムのあらゆる技術を活用し今年度中の実用化めざす

## ● 次世代型防犯カメラ

### 「セコムNVRシステム」の提供を開始

2013年の暮れに起きた食品工場での商品への農薬混入事件は、内部犯行であったため、多くの工場などが従来の生産管理体制を見直すようになり、安全対策として内部統制を強化すべく、防犯カメラシステムを導入する企業が増えています。

防犯カメラの画像は、犯罪の抑止となるなど、「安全・安心」のための欠かせないシステムとなっていますが、カメラの普及が進むにつれ、電源の入れ忘れや録画設定の間違いなど人為的なミスで画像が記録されていないことや、画像の記録装置が故障した場合に、部品交換に手間がかかるなど、課題が出てきました。

セコムではこれらの課題を解決するために、次世代型防犯カメラ「セコムNVRシステム」の提供を開始しました。

カメラの故障、配線切断などの妨害行為も、セコムが常時監視しているため、確実な画像記録を実現し、お客様のセキュリティレベルの向上にも貢献します。また、フルハイ

ビジョンカメラや照度補正カメラなど、カメラのラインアップも充実しています。

さらにオプションである「セコム画像アーカイブサービス」のご利用を通じて、「セキュアデータセンター」で記録画像を確実に預かりすることで、画像の記録装置や画像管理を不要としました。

「セコムNVRシステム」は、独自の高度なセキュリティネットワークを利用しており、複数店舗を所有するオーナーや多くの支店を統括する責任者の方など防犯カメラの設置から監視・記録・再生に至るあらゆるシーンでお客様のご要望にお応えします。



「セコムNVRシステム」

## PART 2

## 「超高齢社会」への取り組み

### ● 高齢者の不安を解消する

#### 「セコム・マイドクタープラス」が好評

セコムは、超高齢社会を迎えた日本の現状と将来を見据えたサービスの提供に取り組んでいます。突然の体調不良やけがなどへの不安を解消したい高齢のお客様に提供しているのが、「セコム・ホームセキュリティ」のオプションである高齢者向け救急時対応サービス「セコム・マイドクタープラス」です。

「セコム・マイドクタープラス」は、救急対応と介護を一体化したサービスで、携帯電話・GPS機能・救急通報機能を備えた専用端末を使用し、屋内外でいつでも、どこでも救急通報信号をセコムに送信することができます。セコムの管制員は、電話でお客様の状況を確認し、要請があれば緊急対応員が急行。看護師に相談したいという要請があれば、セコムのナースセンターに、「セコム・マイドクタープラス」を使用して健康相談をすることができます。

また、救急車の手配要請があった場合には、データセンターでお

預かりしているお客様の救急情報を「セコム・マイドクタープラス」に送信し、救急隊員や医療機関への情報提供に努めます。さらに専門的な介護の必要がある場合には、お客様があらかじめご契約している介護事業会社に対応を要請し、必要な介護サービスを受けることもできます。発売開始以来、多くの貢献事例が報告されており、2014年からは自治体や法人向けへの導入も進んでいます。

同じくホームセキュリティのオプションとして、メディカルサービスと生活支援サービスを組み合わせ、高齢者の暮らしを定期的に見守る「お元気コールサービス」や「お元気訪問サービス」もご用意しており、離れて暮らすご家族に見守りの報告をすることで、ご家族に安心を提供しています。

### ● 認知症高齢者の徘徊対策や

#### 子どもの誘拐対策として注目される「ココセコム」

2001年4月に発売を開始した位置情報提供システム「ココセコム」は、GPS衛星と携帯電話基地局の電波を利用し、携帯端末の位置を高精度で確認することができるサービスです。またお客様からのご要請



「ココセコム」



「セコム・マイドクタープラス」

があれば、24時間365日、緊急対応員が駆けつけます。

サービス開始当初は主に子どもの連れ去り防止、自動車やバイクの盗難防止などに活用されていましたが、個人の防犯対策、建設機械やATM（現金自動預払機）などの盗難対策など利用形態が拡大。近年では、行方不明者が全国で1万人（2013年警視庁調べ）を超えるなど、社会問題化している認知症高齢者の方々の徘徊対策に有効であると注目を集めており、この分野での普及も進んでいます。

セコムは「ココセコム」の提供で初めてネットワーク基盤として携帯電話網を利用して以来、異常監視や緊急通報などさまざまなセキュリティサービスを進化、拡大させてきました。その結果、2014年4月には、携帯電話会社以外のMVNO（仮想移動体通信事業者）としては初めて、使用する携帯電話網の回線数が100万回線を突破しました。

## ●セコムグループ初となる高齢者向け複合施設 「セコムカレアあざみ野」

総務省の推計（2013年9月末）によると、日本の65歳以上の人口は3,000万人を超え、総人口に占める割合（高齢化率）も約4分の1と世界で最も高い数値です。今後も高齢化はさらに進むことが予想されており、介護・福祉施設の重要性はますます高まっています。

超高齢社会となった今、高齢者が生き生きと過ごせるためのサポートや地域との連携・交流の重要性が高まっています。それを形にしたのが、神奈川県横浜市の「セコムカレアあざみ野」です。

「セコムカレアあざみ野」は、通所介護サービス（デイサービス）を行う「セコムシニア倶楽部あざみ野」、サービス付高齢者向け住宅「リーフエスコートあざみ野」、さらに地域交流スペース「カレア」などが一体となった、高齢者のための住まいとサービスの複合施設として2013年11月に開設



高齢者向け複合施設「セコムカレアあざみ野」

しました。地域と連携しながら高齢者を見守る施設は、この地区で初めての取り組みであり、高齢者が自立した生活を送れるよう支援しています。

## ●在宅医療・介護サービスの総合拠点 「セコム在宅総合ケアセンター鎌倉」

セコムでは、1991年から民間企業としては日本初の「訪問看護サービス」と「薬剤提供サービス」を開始。現在では、全国33カ所の訪問看護ステーションと東京と大阪に計3カ所のセコム薬局を展開しているほか、通所介護サービスの拠点を5カ所で展開しています。

神奈川県鎌倉市では、2003年から「訪問介護サービス」と「居宅介護支援」、2013年から「訪問看護サービス」の拠点を設けて、サービスを提供してきました。そして、2014年4月、それらのサービスに「通所介護サービス」を加え、訪問リハビリテーションも併設。さまざまな在宅医療・介護サービスで培ってきたノウハウを結集し、「訪問看護」「訪問介護」「通所介護」「居宅介護支援」のサービス拠点を一体化した「セコム在宅総合ケアセンター鎌倉」を新設しました。

これにより、看護師・介護員・ケアマネージャー・理学療法士の連携が促進されることで、利用者情報の共有や臨機応変な対応、介護の重度化の予防、認知症への早期対応を図ることができ、利用者の生活の質を向上させることができるようになりました。

こうしたノウハウを組み合わせ新たなモデル作りも始まっています。東京都杉並区の久我山地域では、提携病院を核としながら、地域の医療・看護・介護施設や薬局などをネットワークで結んで連携し、その近隣の地域の健康・医療・介護サービスを連続して効率的に提供する試みにも取り組んでいます。



「セコム在宅総合ケアセンター鎌倉」

### ● ビッグデータを有効活用する 「リアルタイム災害情報サービス」

災害が発生した際、セコム独自のビッグデータ解析により、お客様に信頼できる情報を提供するのが、次世代防災サービス「リアルタイム災害情報サービス」です。

このサービスは、セキュリティ・防災・情報通信のノウハウを融合し、セコムのセキュリティネットワーク、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）や公的機関による開示情報を、セコムの「セキュアデータセンター」に集約することで、「安全な避難」や「事業継続の判断や指示」に必要な確度の高い情報を提供することができます。

避難情報は、火災・液状化・冠水位置などの「危険情報」をお客様の登録地や現在地に応じてカスタマイズして、個人・企業向け発信されます。また、BCP情報は企業の管理者に専用サイトで災害関連情報として提供されます。

「リアルタイム災害情報サービス」は、災害に強い「セキュアデータセンター」に併設された「セコムあんしん情報センター」が運営しています。このセンターは、あらゆる災害発生時にもサービスを提供できる体制を整え、24時間365日災害情報を監視し、集積・分析してお客様に配信を行っています。



「セコムあんしん情報センター」が運営する  
「リアルタイム災害情報サービス」

### ● 充実する大規模災害対策サービスで 事前準備から復旧をトータルに支援

セコムでは、災害に備えた事前準備として「初動マニュアル作成支援サービス」を提供、さらに災害発生時の状況把握にはBCPを支援する「セコム安否確認サービス」を提供しており、災害発生時における企業の被災状況の情報収集と、初動を支援しています。

「セコム安否確認サービス」は、災害発生時における社員や家族の安否を確認する、国内最大級の危機管理サービスで、約450万人・5,100社に利用されています（2014年9月末）。また、安否確認と連動して、事業の継続・再開に必要な人員の迅速な手配を支援する「セコム非常呼集サービス」では、社員のスキルや居住地などを考慮し、指示を的確に行うことができます。

### ● 高度化・巧妙化するサイバー犯罪の 被害拡大を防止

近年、被害が急増するネットバンキングでの不正送金の手法は、急速に高度化・巧妙化しています。警察庁の調べによると、2013年の被害額



「セコムプレミアムネットサービス」

は前年の約4倍となる14億6,000万円、さらに2014年1～6月の被害額は18億円強と前年1年間の被害額を上回り、その被害金額は拡大傾向となっています。

インターネットの安全な利用を脅かすサイバー犯罪への抜本的対策としてセコムが提供を開始した「セコムプレミアムネットサービス」は、利用者のパソコンに専用USBを接続することで、ウイルス感染を防ぎ、安全な通信経路を確保の上、サイトの入口まで誘導し、安心してネットバンキングをご利用いただくことができます。

「セコムプレミアムネットサービス」は、「データセンター事業で培ったサービス力」「お客様のシステムを24時間365日運用・監視する有人体制」「サイバー攻撃への対応経験と高い技術力」「情報漏えいやウイルス感染などの際に出動する技術者集団の対処力」など、豊富なノウハウを持ったセコムならではのサービスです。

### ● コスト削減や省エネを実現する 高付加価値システムの「セコムFX」

環境の分野では、侵入・火災監視機能と設備制御機能を一体化した「セコムFX」を提供しています。設備制御機能は、照明や空調、看板灯、防犯カメラなどに利用でき、オフィスはもちろん、コインランドリーなどの無人店舗やマンションの共用部で、スケジュールに合わせて照明や空調、出入口のシャッターの開閉などを自動制御することで、無駄な電力使用を抑え光熱費削減が図れます。

セコムでは、これからもお客様のニーズにきめ細かくお応えし、企業の競争力と価値創造力を飛躍的に高めるサービスを拡充していきます。



# お客様とともに

セコムでは、独自の高品質なサービスを提供するために、研究開発からメンテナンスまでのすべてのプロセスで、高い安全性・信頼性を確保するための仕組みを構築しています。

そして、お客様の声に常に耳を傾け、さらなるサービス品質の向上に努めています。

## 「トータルパッケージ・システム」

「セコム」ブランドのセキュリティシステムは、細部に至るまでセコム基準のクオリティを徹底することから生まれます。高品質のセキュリティシステムを提供するために、研究開発から機器の製造、営業活動、取付工事、24時間監視、緊急対処、メンテナンスまでを、セコムグループで一貫して提供する体制をとることで、システムの高い信頼性を確保しています。

研究開発の分野では、「IS研究所」が基盤技術の研究に取り組み、「開発センター」がその基盤技術を生かして、独自のセキュリティシステムを開発しています。高い品質と製品の安全性・信頼性を維持するために設けられた「セコムグループ機器標準仕様」をクリアした機器のみが商品化されます。

また、機器の取付工事においては厳格な設置基準を設け、レンタル方式で提供するセキュリティ機器はセコムが責任を持って維持・管理するので、お客様は常に品質の高い安定したセキュリティサービスを利用することができます。

## お客様とのコミュニケーション

「セコムお客様サービスセンター」では、セコムのシステムやサービス、商品に対するお客様からのさまざまなご要望やお問い合わせに電話でお応えしています。センターには、外国語が話せるスタッフも配置し、外国の方々からのお問い合わせにもお応えできる体制を整えています。

また、1件1件のお客様を訪問することを専門とする「お客様満足度促進担当」を全国に配置し、「困った時」だけでなく、「日常のお客様の期待」にお応えできるよう、取り組んでいます。



あらゆるお問い合わせに対応する「セコムお客様サービスセンター」

## 人材育成と研修体制

お客様に高品質のサービスを提供するためには、サービスの質や信頼に直結する社員の知識と技能を高め、安全の

## 主な取り組み

### ■ 高品質なサービスを提供するための取り組み

- セコム独自の「トータルパッケージ・システム」による高品質なセキュリティサービスの提供



### ■ お客様とのコミュニケーション

- 専任の「お客様満足度促進担当」による全国のお客様訪問
- 「セコムお客様サービスセンター」によるお問い合わせ対応



お客様満足度促進担当

「セコムお客様サービスセンター」

### ■ 製品安全性・責任の確保

- 高い品質、安全性、信頼性を追求する「セコムグループ機器標準仕様」
- お客様のご要望・ご意見を取り入れて操作性・安全性の向上を図る機器改良
- セコム独自の厳しい有害化学物質使用禁止基準を含む「グリーン設計ガイドライン」

プロとして育成することが極めて重要です。セコムでは、さまざまな教育プログラムを整備し、全国4カ所の研修センターで年間約230コースの研修を実施し、知識や技術とともに「セコムの理念」や安全のプロとしての行動規範の教育を行っています。



新入社員から幹部社員までを対象としたさまざまな研修

全国4カ所の研修センターで行われる集合研修

## プライバシーや環境に配慮したサービス・商品の提供

セコムでは、お客様はもちろん、地域の皆様のプライバシーについても配慮しています。たとえば、防犯カメラの設置基準・運用などを事前に定め、プライバシーの侵害を起さぬよう、独自の厳格な基準を作り、徹底しています。

また、システムや商品は「環境配慮設計」「グリーン設計ガイドライン」により、有害物質の排除、省電力、省資源を図っています。

※22ページをご参照ください。

- 機器の製造部門であるセコム工業(株)における、品質マネジメントシステムの構築・運用 (ISO9001を認証取得)
- 機器製造部門・委託先への工程監査や立会検査による品質確保
- 製品の品質・安全性に関わる情報の適正表示・開示
- システムを正常に機能させる「セキュリティプランニング」と「取付工事」
- 製造物責任 (PL) 法などの関連法規の遵守

### ■ プライバシー保護

- お客様や関係するすべての方々のプライバシーに配慮した運用ルール  
(「ココセコム」や防犯カメラの運用ルール・設置基準等)
- プライバシーポリシー (個人情報保護方針) に基づく組織運営・プライバシーマークの取得
- 全社員を対象とした個人情報保護法の教育および確認テストの実施

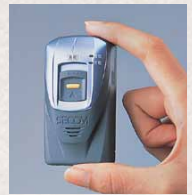
## 商品等の適正表記と公正な営業活動

取扱説明書やパッケージ、広告物などは、お客様に正しく、わかりやすく情報を伝えるとともに、誤認・誤操作を招くことのないように作成しています。

また、営業活動においては、特定商取引法をはじめとするさまざまな関連法規への適合性を常に確認し、お客様のニーズに合った、最適なサービス・商品を提供しています。

### 子どもを見守る「ココセコム」が初のCSD認証登録

2001年4月から提供している「ココセコム」は、GPS衛星と携帯電話基地局の情報を組み合わせた精度の高い位置検索機能に加え、要請に応じて緊急対応員が駆けつけるセコムならではのサービスです。サービス開始以来、「ココセコム」の貢献事例は6,000件を超えています。



2014年3月、「ココセコム」を活用した子どもを見守るサービスが、企画・開発から運用に至るまでのすべてのプロセスで高い安全性への配慮がされているとして、CSD認証\*の第1号認証となりました。

\*CSD認証…(Child Safety through Design) キッズデザイン協議会が制定した、子どもの安全性向上を目的とする第三者認証制度

### ■ 商品等の適正表記と公正な営業活動

- パッケージ・広告物などにおけるわかりやすい表現、正確な情報表示
- 正しくお使いいただくためのわかりやすい取扱説明書などの作成とお客様への説明
- 特定商取引法や独占禁止法などの関連法規の遵守
- お客様のニーズに合った最適なサービス・商品の提供

### ■ スキルアップと「セコムの理念」などの教育

- 全国4カ所の研修センター「セコムHDセンター」
- 部門別・職能別研修による知識・技能・実務能力の向上
- 研修や資格級審査などを通じた「セコムの理念」や「セコムグループ社員行動規範」の教育



# 社員とともに

セコムでは、社員一人ひとりが常に自分の意志で生き生きと仕事をして自己実現していくことが、結果として組織の発展につながると考えています。

「組織の力は社員個々の力の総和」という考えのもと、個性と能力を伸ばすための独自の教育・研修体系を確立して人材育成に力を注ぐとともに、社員が生き生きと職務を遂行できるように福利厚生制度の充実などに取り組んでいます。

## 「人財」の重要性

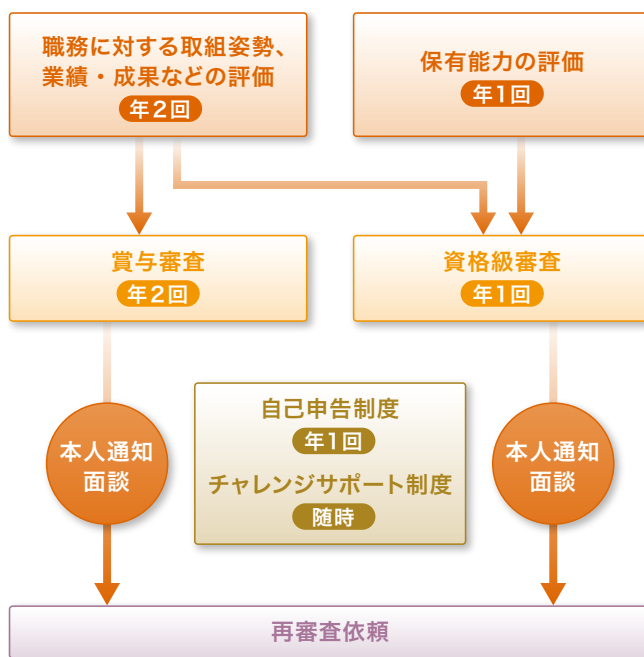
お客様と直に接するスタッフの知識や技能は、サービスの質や信頼性に直結します。セコムのセキュリティ事業の強みは、「よく訓練されたプロフェッショナルな人材」と「高度な技術力と情報通信基盤」を組み合わせることによる「安全・安心」のサービスであり、「人財」は欠かすことができない重要な要素です。

### ● キャリア形成支援の取り組み

セコムの「人事評価制度」は、「より努力し、能力を上げ、成果を発揮した人にふさわしく報いる」ことを目的とし、「評価と育成」「透明性と公正さ」を重視しています。

そして、将来のあるべき姿を真剣に考えて職務・時期・理由などの申告を行う「自己申告制度」や、部門別・職能別のカリキュラムによる研修制度などを設け、社員のキャリア形成を支えています。

### ▼ 社員の努力を公正に評価し、自発的な成長を支援する人事システム



## 主な取り組み

### ■ キャリア形成支援のための制度

- 「人事評価制度」および評価結果の再審査を申告できる「再審査依頼制度」
- 担当業務の所感や希望を申告できる「自己申告制度」
- 新たな仕事への希望を申告できる「チャレンジサポート制度」
- 女性社員が働きやすい環境づくりに取り組む「女性の活躍推進委員会」
- 部門別・職能別研修による知識・技能・実務能力の向上
- 責任者としての力と心得を常に確認できる「責任者ナビ」
- グローバル人材を育成する「海外留学制度」
- 積極的な自己啓発を支援する「通信教育助成制度」
- 特筆すべき活躍をたたえる「ベスト・オブ・セコム賞」などの各種表彰制度



「責任者ナビ」



部門別・職能別研修



2013年度「ベスト・オブ・セコム賞」受賞者



## ● 多様な働き方のサポート

ワーク・ライフ・バランス推進の取り組みとして、出産・育児・看護・介護に関する休暇・休業制度を充実させています。子育てや介護・看護が必要な社員に、各種制度や給付金などの情報を提供する「セコムの両立支援サイト」を設置し、社員の仕事と育児や介護の両立を支援しています。

また、50歳から60歳の間で自由に定年時期を選択できる「セカンドステージプロモーション制度」や、定年再雇用社員の「短時間勤務制度」を設け、社員のさまざまな人生設計やニーズに応えています。

さらに、障害者雇用を積極的に推進するために、セコムグループ各社の事務代行などを請け負う特例子会社\*のセコムビジネスプラス(株)を設立し、バリアフリーなどで働きやすい職場環境を整備しています。

\*特例子会社…障害者の雇用を促進する目的で作る子会社のこと。



「セコムの両立支援サイト」

## ● グループで人材を育成

グループ約5万人の社員が相互理解・意思疎通を深め、セコムグループの力を最大限に発揮できるよう、セコムグループ社員が参照できる情報共有サイト「ALL SECOM FOCUS」を設けています。また、現在とは異なる業務へ挑戦したいという社員の希望を支援する「チャレンジサポート制度」は、セコムグループの全社員を対象とし、より幅広く・柔軟に人材登用ができる仕組みを構築しています。

## ● 人権尊重の取り組み

セコムの運営の基本方針である「運営基本10カ条」では、人権尊重の精神を示すとともに、「セコムグループ社員行動規範」で具体的に遵守すべき行動基準を定めています。人権尊重の社員教育と組織運営を行うとともに、問題や悩みを匿名で相談できる「社員相談サイト」や「セクシャルハラスメント相談窓口」などの相談窓口を設け、事実把握と早期解決により社員を支援します。

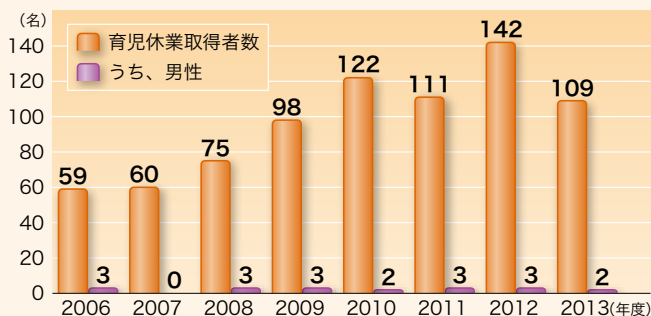
### 「運営基本10カ条」(抜粋)

- 社会は一人ひとりの人間によって構成される。セコムも同様に一人ひとりの社員によって構成される組織体である。いうまでもなく、一番重要なことは、社員一人ひとりが、生き活きと価値ある人生を送ることである。セコムの組織内にあつてももちろんであるが、組織外であっても、人間尊重が基本であり、いかなる場合においても、いささかも人間の尊厳を傷つけてはならない。
- セコムは、すべてに関して礼節を重んずる。

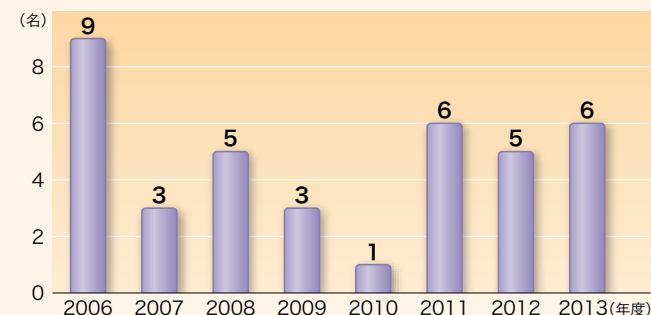
## ■ 多様な働き方のサポート

- 心身の健康・意欲と情熱を保つための「リフレッシュ休暇」など各種休暇制度
- 仕事と育児や介護の両立のための情報提供・相談受付をする「セコムの両立支援サイト」
- 子育てサポート企業として「次世代認定マーク」の取得
- 出産・育児・看護・介護をサポートする休暇・休業・短時間勤務制度（産前産後休暇、育児休業、育児のための就業時間変更・免除（短時間勤務）、看護休暇、介護休暇、介護休業、介護のための就業時間変更・免除（短時間勤務）等）
- 高齢者の人生設計をサポートする「セカンドステージプロモーション制度」「短時間勤務制度」
- 出産・育児・介護による退職者を再雇用する「ジョブリターン制度」
- 特例子会社設置などによる障害者雇用の促進

### ▼ 育児休業取得者数



### ▼ 介護休業取得者数



## 労働安全衛生の取り組み

誰もが明るく生き生きと働けるように、さまざまな安全衛生の取り組みを充実させています。

### ●「健康推進室」

安全衛生管理体制の整備を統括的に進め、労働安全衛生活動を推進するために、産業医療分野の経験が豊富な統括産業医が、セコムグループ各社への助言や社員に対する健康上の支援を行っています。

### ●「明るい職場創造委員会」

社員の誰もが明るい気持ちで業務に取り組めるように、職場環境の向上を目的として、什器備品の交換、床、壁、天井の内装工事、レイアウト変更工事、耐震対策などを、順次行っています。

社員の安全に配慮した労働環境整備のために、2013年度は大規模地震の発生リスクが高いとされる地域において、事業所のすべてのキャビネット類の転倒防止対策を行いました。

### ●「セキュリティドライビング」

社会の安全を脅かす車両事故を撲滅するために、「セキュリティドライビング」に関する教育を実施するとともに、一定の走行距離で無事故・無違反を達成した社員を表彰し

ています。2012年度からは、1年間を通じて無事故・無違反を達成した事業所も表彰しています。

### ●「テクノ事業本部」の取り組み

「テクノ事業本部」では、セキュリティシステムの工事や、建物設備のメンテナンス・補修・改修業務に携わる協力会社の皆様と、災害ゼロの実現を目的として毎月「安全衛生協議会」を、地域ごとに行う「安全衛生大会」を年に1度、開催しています。2014年1月には全国の協力会社とともに「2014年全国安全衛生大会」を開催し、安全で衛生的な作業を継続して労働災害を発生させないことを決意しました。

安全に作業を行うための基礎的な事項や注意点、関係法令などが記載された「安全作業ハンドブック」を社員および協力会社に配布し、工事に携わる協力会社とは、安全作業および労務安全衛生面の基準として制定した「安全作業グレード制度」の向上に取り組んでいます。



「2014年 全国安全衛生大会」

## ■ 人権尊重の取り組み

- 人権尊重の組織運営を行うための「セコムの理念」や「セコムグループ社員行動規範」の教育
- 人権を守るための各種相談窓口（「社員相談サイト」「セクシャルハラスメント相談窓口」等）



「セコムの理念」「セコムグループ社員行動規範」の研修

## ■ 労働安全衛生の取り組み

- 健康管理（健康診断・成人病検査の実施）
- 健康維持・増進を図る「健康推進室」の設置と統括産業医による個別指導
- 全社員を対象とした「ストレスチェック」の実施とカウンセリング窓口
- 労働安全衛生活動を継続的に推進する「衛生委員会」
- 職場環境の向上を進める「明るい職場創造委員会」
- セキュリティスタッフの安全を確保するための「システム行動」「セキュリティドライビング」の教育・訓練
- 安全作業のためのWebマニュアルと確認テスト
- 工事・メンテナンスの協力会社と一体となって労働災害撲滅を進める「安全衛生協議会」「安全衛生大会」「全国安全衛生大会」の開催、「安全作業ハンドブック」の配布

## ダイバーシティの推進 「女性の活躍推進委員会」

2013年5月、社長名の通達にて「女性の活躍推進宣言」を全社員に通知。同6月に、女性の活躍を推進させる専門セクションとして「女性の活躍推進委員会」を発足させました。

具体的な目標として、「女性の活躍に対して、男女問わず全社員の意識改革」「女性社員のキャリアアップを支援」などを掲げ、以下の取り組みを行っています。



「女性の活躍推進サイト」

- 専門セクション「女性の活躍推進委員会」による推進活動の実施
- 社内ネットワーク形成・情報共有化のため、専用の社内サイトを開設
- 広報誌・社内サイトなどによる社内のロールモデルの周知
- 全社員の意識改革により、女性社員のみが行う慣行業務の廃止
- 情報の共有化や研修などの人材育成による、女性の職域拡大

## イベント「セコムで輝く女性たち」を開催

「女性の活躍推進委員会」主催のパネルディスカッション「セコムで輝く女性たち」を開催したところ、東京で約80名、大阪で約50名の女性社員が集まりました。



2013年12月にセコム本社ビルで開催された、「セコムで輝く女性たち」のパネルディスカッション

## 活気ある健全な組織風土の醸成

「社員の向上と会社の発展は一体不可分である」との基本理念のもとに設立されたのが「セコムライブラリーユニオン（セコム社員連合組合）」です。セコムでは、社員の士気を高め、セコムらしい活気ある健全な組織風土を築き、組織の活力を最大化することを目的に、「セコムライブラリーユニオン」と会社でさまざまな意見交換を行っています。



「明るい職場創造委員会」によりリニューアルされた事業所



車両事故の撲滅はセキュリティ事業の根幹

## 活気ある健全な組織風土の醸成

- 健全な組織風土を築き、組織の活力を最大化するための「セコム組織風土社員会議」「セコム社員中央審議会」の開催



地域ごとに開催される、「セコム組織風土社員会議」



「セコム社員中央審議会」



# 地球環境とともに

セコムがめざす安全で快適な暮らしの基盤が地球環境の保全であるという認識のもと、バリューチェーン全体で、地球温暖化防止、資源有効利用、生物多様性保全など、地球環境保全に配慮した行動を実践しています。

## 「資源循環型」・「低炭素型」のビジネスモデル

1962年、セコムが日本で初めて開始したセキュリティ事業は、社会に「安全・安心」を提供するだけでなく、盗難や火災による資源損失を未然に防止する、環境貢献度が高い事業です。

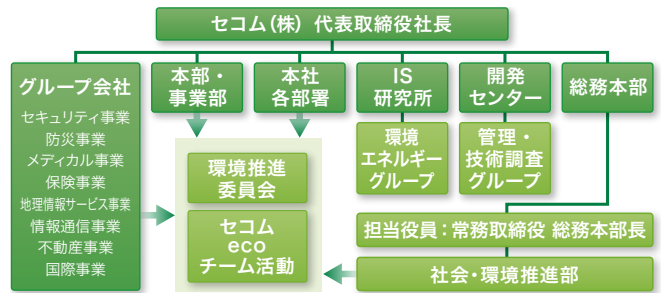
その中でも、主力サービスであるオンライン・セキュリティシステムは、セキュリティ機器をレンタル方式でお客様に提供することを基本とし、機器の開発・製造から取付・運用、回収・廃棄までのすべてをセコムグループ内で一元的に行うことで、「資源循環型」・「低炭素型」のビジネスモデルを実現しています。たとえば、研究開発、製造においては、有害物質の排除、省電力化、省資源化を図る「環境配慮設計」を行っています。また、車両の環境対策を積極的に進め、車両燃料やCO<sub>2</sub>（二酸化炭素）排出などの削減に努めています。さらに、セキュリティ機器はすべてセコムが回収し、修理できるものは修理して再利用しているので、「廃棄物の削減」「リサイクルの高効率化による資源の有効利用」「地球温暖化の原因となる温室効果ガスであるCO<sub>2</sub>の削減」などに貢献しています。

## 環境マネジメント体制

### 環境基本理念

セコムは「社業を通じ、社会に貢献する」という企業理念に基づき、セコムがめざす安全で快適な暮らしの基盤が地球環境の保全であるという認識のもとに、あらゆる事業活動において地球環境保全に配慮した行動をとります。

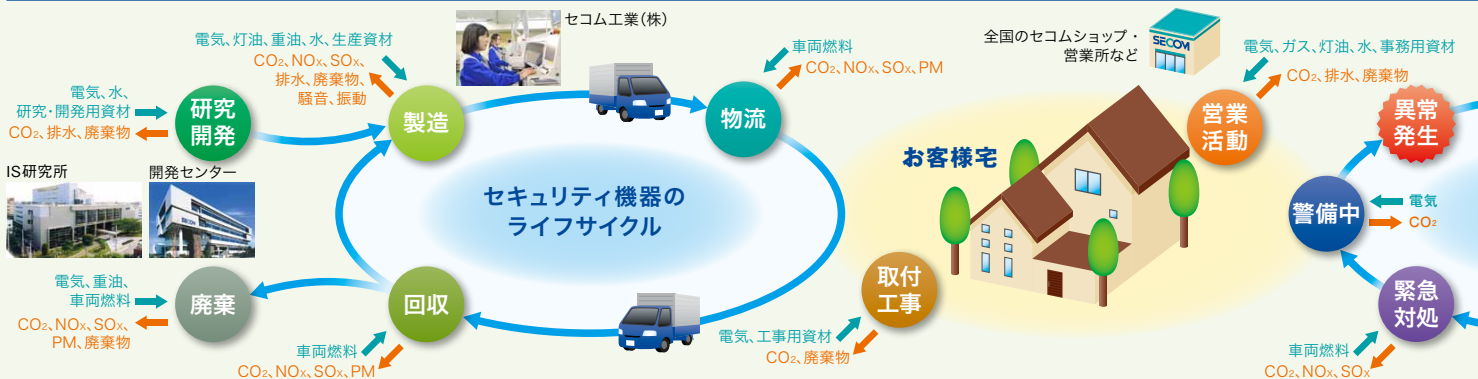
「環境基本理念」と「環境基本方針」を定め、代表取締役社長を最高責任者、常務取締役総務本部長をリーダーとして、「社会・環境推進部」が中心となり、環境マネジメントの運営、環境施策の立案と通知、監査など、グループ全体の環境保全活動を推進しています。また、研究開発部門やグループ会社が専門分野を生かした先進的な環境施策に取り組んでいます。



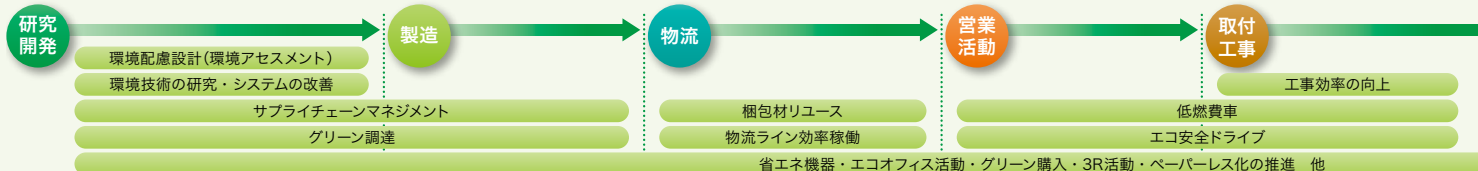
## 主な取り組み

### セコムとECOのかかわり ～「資源循環型」・「低炭素型」のビジネスモデル～

#### オンライン・セキュリティシステム(家庭用)における環境への影響



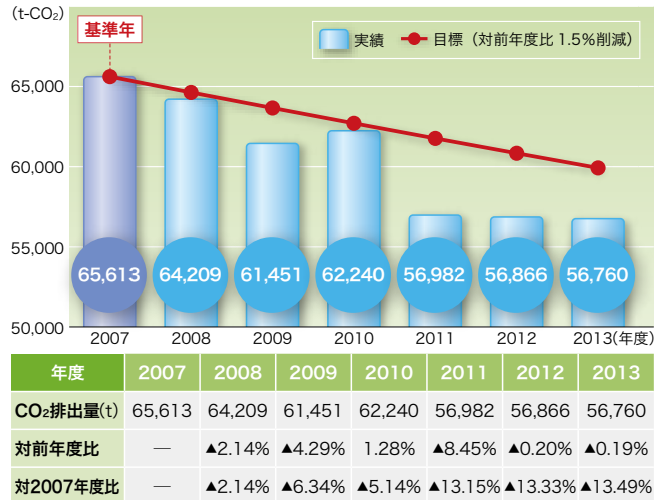
#### オンライン・セキュリティシステムのライフサイクルにおける環境配慮



## 中長期目標 —セキュリティ事業グループ—

主力のセキュリティ事業では、さまざまな業務で数多くの業務車両を使用しており、車両燃料をはじめとするCO<sub>2</sub>排出量の削減はセコムにとって重要性が高く、社会への影響とステークホルダーの皆様からの関心が高いことから2008年よりCO<sub>2</sub>排出量削減をKPI（主要業績評価指標）として取り組んでいます。

- 取り組み目標 …… 事業活動に伴いセコムのセキュリティ事業グループが排出するCO<sub>2</sub>の総量削減
- 基準年 …… 2007年度
- 指標 …… 2020年度までの年間削減率
- 目標 …… 対前年度比1.5%の継続的削減



## 環境保全コスト・効果 —セキュリティ事業グループ—

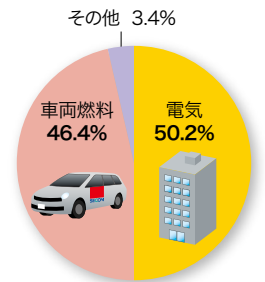
### 2013年度の環境保全コスト・CO<sub>2</sub>削減効果

環境保全活動に伴うコストと主要プロジェクトのCO<sub>2</sub>削減効果は以下の通りです。

項目名	投資額	費用額	主な内容
地球環境保全活動	9.0	115.8	省エネ・高効率機器導入などに伴うコスト
資源循環活動	71.0	493.6	廃棄物処理・処分コスト、ペーパーレスのシステム開発に伴うコスト
管理、教育活動	2.0	17.1	環境保全推進システム構築、社内外での啓発活動などに伴うコスト
研究開発活動	0.0	14.6	環境関連サービスの開発に伴うコスト
社会活動、その他	0.0	0.5	社会活動、その他コスト
合計	82.0	641.7	

プロジェクト名	CO <sub>2</sub> 削減 [年間換算] (t)
環境対策車導入 (174台)	249
複合機導入 (254台)	115
PCのシンクライアント化 (2,298台)	121
空調機更新 (106台)	241
LEDほか省エネ機器導入	266
合計	992

### 2013年度 CO<sub>2</sub>排出量の内訳



## 環境マネジメント

- 「環境基本理念」「環境基本方針」に基づく組織運営
- 「環境基本方針」を実践するための「環境マネジメント体制」
- 継続的な環境改善を図るための環境マネジメントシステム (ISO14001) の認証取得
  - ・セコム工業(株) (1999年11月)
  - ・(株)東光クリエート (1999年12月)
  - ・セコム(株) TEセンター (2000年12月)
  - ・能美防災(株) (2001年8月)
  - ・(株)PASCO SPACE MAPPING TECHNOLOGY (2003年2月)
  - ・(株)パスコ (2003年2月)
  - ・ニッタン(株) (2004年2月)
  - ・セコム山陰(株) (2007年12月)
  - ・セコム北陸(株) (2008年3月)

● 環境法令の遵守 (省エネ法<sup>\*1</sup>、温対法<sup>\*2</sup>、自動車NOx・PM法、各自治体の環境関係の条例 (東京都環境確保条例等)) — 2013年度の違反や係争事項はありません。

\*1: エネルギーの使用の合理化等に関する法律  
\*2: 地球温暖化対策の推進に関する法律

- 中長期目標 (CO<sub>2</sub>排出総量削減) 達成への取り組み
- 環境会計 (環境保全コスト・保全効果、経済効果)
- エネルギー使用量を一元管理する「環境保全推進システム」
- CO<sub>2</sub>排出の第三者検証
  - 2013年度に排出したCO<sub>2</sub>の総量について株式会社JACO CDMより検証報告書を取得しています。



# セコムの環境保全活動

## 地球温暖化防止対策

### ● くるまのエコ ～環境対策車化達成と2020年新目標～

セキュリティ事業では、緊急対処をはじめ、現金護送、技術・工事対応、営業活動などさまざまな場面で車両を使用しており、排出されるCO<sub>2</sub>は、セキュリティ事業全体の約半分を占めています。そこで、2008年より「2013年までにすべての業務車両を環境対策車<sup>\*1</sup>にする」ことを目標に取り組みできました。その結果、2014年3月末現在、全車両の99.5%がハイブリッド車・電気自動車を含む環境対策車となり、CO<sub>2</sub>などの排出量は大幅に減少しました。

今後は、より環境性能に優れた車両に切り替えていくこ

ととし、「2020年度末までに、セコムグループのすべての4輪車両を『低燃費車<sup>\*2</sup>にする』という新たな目標を立て、セコムグループ全体でCO<sub>2</sub>の削減に取り組んでいます。

\*1:セコムの「環境対策車」とは、国が策定した「低公害車開発普及アクションプラン」に該当する低公害車のうち、実用段階にある低公害車および同等の性能を有した車両のことです。

\*2:セコムの「低燃費車」とは、「平成32年度燃費基準」「平成27年度燃費基準」「平成22年度燃費基準+25%」のいずれかと、「平成17年排出ガス基準-75%」を共に達成した車両のことです。

### ● オフィスのエコ ～エコロジー、エコノミー、効率性～

ファシリティマネジメントの一環として、オフィスで使用する設備機器や備品の環境対策に取り組み、高効率な省エネルギー機器の導入を促進しています。

## 「エコ安全ドライブ」の徹底とコンテストの実施

セコムでは、省エネかつ安全運転を追求する「エコ安全ドライブ」に取り組んでいます。マニュアルの配布やポスターの掲示に加えて、全国の事業所で、SDL (Security Driving Leader) による実地指導を行い、事業所には本社担当部門のスタッフが訪問して添乗指導を行っています。

また、2013年11月にはすべての事業所で、車両部門と事業所部門で燃費向上度を競う「エコ安全ドライブコンテスト」を実施。運転に携わる全社員がコンテストに参加した結果、燃費の向上に加え、追突事故発生率の大幅な低下も見られました。



セコムの低燃費車



「エコ安全ドライブ」のポスター

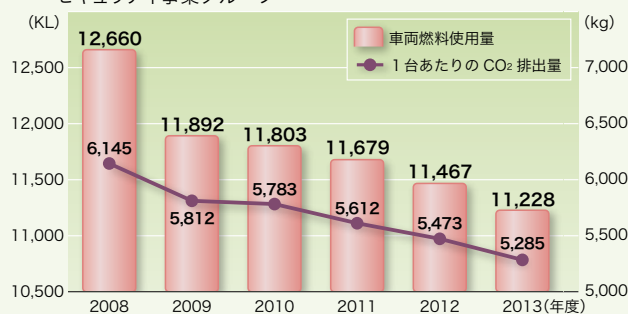
## ■ 環境教育

- 業務知識向上や環境保全意識の啓発を図る「環境のホームページ」
- 一人ひとりが環境保全に取り組む「セコムecoチーム活動」
- 社内報「セコムティー」の「SECOMのECO活動コーナー」での環境保全活動紹介

## ■ 地球温暖化防止活動

- 車両の環境対策によるCO<sub>2</sub>、NO<sub>x</sub>、PM削減
- 省エネ運転と安全運転を定着させる「エコ安全ドライブ」の教育・啓発活動
- オフィスの環境対策（省エネ機器の導入）によるエネルギー使用量・資源の削減
- サプライヤーと協働したバリューチェーン全体でのCO<sub>2</sub>排出量（スコープ1,2,3）把握と削減
- 社会活動への参画（環境省「うちエコ診断」への参加、経済産業省・資源エネルギー庁「グリーンエネルギークリスマス」への参加、株主総会での「グリーン電力」の使用など）

### ▼ 車両燃料使用量・四輪車両1台あたりCO<sub>2</sub>排出量



### ▼ 電力使用量



## 資源の有効利用

### ● 「環境配慮設計」の取り組み

システムや商品の開発・設計を担当する「開発センター」では、環境保全、資源の有効利用、長期使用など、環境への影響を考慮した「環境配慮設計」を実践しています。

サプライヤーの皆様約100社に対して「グリーン設計ガイドライン」を発行し、製品の省エネ性能の向上と減量化・減容化、セコム独自の使用禁止16物質の使用禁止遵守などを要請しています。

この取り組みの成果として、2013年度は、製品の製造・使用などに伴うCO<sub>2</sub>排出量を3,860トン<sup>\*</sup>削減することができました。

※製品使用期間中に使用する電力の省エネや、減量化・減容化に伴う省資源についての当社試算

### ● セキュリティ機器のリユース

環境保全と資源の有効利用とコスト最小化の観点から、お客様から回収したレンタル機器を1台ずつ点検し、使用可能な機器や部品などはリユースを行っています。2013年度の代表的な機器のリユース率は下表の通りで、廃棄物の大幅な削減に寄与しました。

#### ▼ リユース率

家庭向けシステム	32.7%
事業所向けシステム	38.0%

## ■ 資源の有効活用

- 省エネ・省資源など環境への影響の最小化を図る「環境配慮設計」
- 省エネ性能や減量化・減容化を追求する「グリーン設計ガイドライン」
- 廃棄物削減（回収機器のリユース・リサイクル、物流資材の削減、製品等梱包材の削減、オフィスでのごみ分別徹底）
- 産業廃棄物処理における「電子マニフェスト」の利用
- 事務用品・消耗品の「グリーン購入」の推進

## ■ 生物多様性保全への取り組み

- 生物多様性に配慮し、自然との調和を大切にした商品も扱う「セコムの食」
- 社員の生物や自然環境への保護意識を啓発する「エコツアー」の紹介
- 生物多様性保全活動を促進する「生物多様性民間参画パートナーシップ」への参加

## 生物多様性保全への取り組み

### ● 「セコムの食」の取り組み

人の命の糧となる食品に「安全・安心」を提供することもセコムの使命であると考え、1998年から「セコムの食」という食品の通信販売事業を行っています。

食は、まさに自然の恵み、生物多様性の恩恵にあずかっています。「セコムの食」では、素材本来の良さが生きるこだわりの商品をお客様にお届けするために、「自然」「安心」「美味」を選定基準としています。

### CDPから高評価

イギリスに拠点を置く、国際的に著名な環境評価NPO法人CDPが、日本の大手企業500社を対象に、地球温暖化防止への取り組みに関する調査を実施しました。調査報告書「CDPジャパン 500気候変動レポート2014」の中で、セコムは気候変動の課題に積極的に取り組んでいる企業として高い評価を受けました。

セコムはディスクロージャースコア（課題認識と取り組み、情報開示度の評価）で100点満点中96点、パフォーマンススコア（具体的な取り組みと成果）でBクラス（A～Eの5段階評価の上から2番目）に位置づけられました。

ディスクロージャースコアが95ポイント以上、かつパフォーマンススコアがBクラス以上だったのは、調査対象500社のうち45社、非製造業では10社、サービス業ではセコム1社のみ



## ■ セコムグループの環境関連サービス

- 節電・環境保全にも寄与する「セキュアデータセンター」
- 省エネ対策を支援する「セコム・エコデータシステム」
- 効率的な設備制御で省エネを実現する「セコムFX」
- 無駄な印刷の防止や設備制御による省エネにも寄与する「セコムIDカードサービス」
- ペーパーレスにより省資源にも寄与する「セコム・あんしんエコ文書サービス」
- エネルギー使用量分析に基づく「省エネ提案」
- 直射日光・熱線を遮断することで冷房使用の抑制に寄与する「住環境改善フィルム」
- 暮らしの省エネ・省資源に寄与するエコ関連サービス「セコム・ホームサービス」「生活太助」
- クリーンで環境に配慮した冷却システム「ドライミスト」



# 地域・社会とともに

「安全・安心」をさらに社会に広め、地域社会の発展に貢献することもセコムの使命と考え、子どもや女性、シニアに対する防犯意識の啓発をはじめ、さまざまな社会貢献を行っています。

## 防犯意識の啓発活動

お子さんへの安全啓発活動として独自に作成した教材を使い、「セコム子ども安全教室」を開催しています。お子さんとその保護者、学校関係者などを対象に、セコムの社員が先生役となり、子どもが犯罪に巻き込まれないためのポイントを説明する授業を行っています。

また、セコムの女性社員と「IS研究所」の研究者による「セコム働く女性の安全委員会」では、女性のための防犯本の監修や防犯サイト「女性のためのあんしんライフnavi」の運営、防犯セミナーなどを通じて、犯罪の実態と防犯対策を伝える啓発活動を行っています。

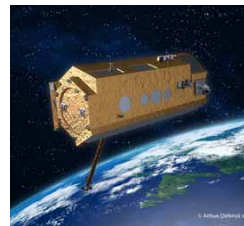
一方、超高齢社会の中で増える高齢者の方々の犯罪被害を防ぐために、長年にわたってサービスや商品を提供してきた安全のプロとして、高齢者向けの防犯・防災対策本の発行や、「安全・安心」な暮らしに役立つ情報サイト「おとなの安心倶楽部」の運営など、高齢者の方々が犯罪に巻き込まれないための取り組みを行っています。

## パスコの災害復旧支援活動

(株)パスコでは、計測技術と空間情報処理技術を駆使し、災害などによる地形の変化をいち早く収集し、災害対策を実施する地方自治体や各省庁など関係各機関に地形情報を無償で提供<sup>\*</sup>しています。

(株)パスコが活用する、合成開口レーダー衛星は昼夜を問わず、雲を突き抜けて地表面の情報を取得できるので、悪天候で航空機が飛べない状況下でも被災地域の撮影が行えます。そのため、土砂崩れや火山活動による地形変化、水没箇所、交通網の寸断箇所などの迅速・的確な把握が可能で、災害復旧、二次災害の予防対策、復旧活動計画の策定などに活用されています。

<sup>\*</sup>2013年度：台風26号豪雨災害（東京都大島町）2013年10月  
西之島噴火活動（東京都小笠原村）2013年11月等



合成開口レーダー衛星  
「TerraSAR-X」



小笠原諸島・西之島の噴火活動モニタリング

## 主な取り組み

### 子どもに伝える「安全・安心」

- 安全啓発を図る「セコム子ども安全教室」の開催



寸劇など動きを取り入れた防犯授業

- セコム社員で構成する「子を持つ親の安全委員会」の監修による書籍出版
- 安心子育てを応援するサイト「子どもの安全ブログ」
- 事故を防ぐための製品デザインの普及・推進を行う「キッズデザイン協議会」への参画

### 女性に伝える「安全・安心」

- セコム社員で構成する「セコム働く女性の安全委員会」の監修による書籍出版、防犯セミナーの実施
- 防犯・防災対策情報サイト「女性のためのあんしんライフnavi」
- 乳がんの早期発見・診断・治療の大切さを伝える「ピンクリボン運動」への協賛

### シニアに伝える「安全・安心」

- セコム社員で構成する「シニアの安全を考える委員会」の監修による書籍出版、情報発信
- 「安全・安心」な暮らしに役立つ情報サイト「おとなの安心倶楽部」



「子どもの安全ブログ」



「女性のための  
あんしんライフnavi」



「おとなの安心倶楽部」



## “AEDがいつでも誰でも使える社会”をめざして

### サービスを通じ、地域社会に「安全・安心」を提供

セコムのAEDご契約台数は約9万1,000台（2014年6月末時点）を超え、国内トップクラスで、セコムのAEDによる救命人数は1,100名を数えるまでになりました。セコムでは、AEDの機器のみを提供するだけでなく、一人でも多くの方の「安全・安心」に貢献するために、各種イベントやAED・CPR（心肺蘇生法）の講習会を通じて、AEDの認知度向上のための啓発活動を行ってきました。



セキュリティサービスを提供する  
ほぼ全社員がAEDの使用法を学ぶ



しかし、日本で一般市民により心肺機能停止が目撃された症例約2万3,000例のうち、一般市民によりAEDが使用されたケースはわずか3.7%※であり、AEDを“備える”だけではなく“いざという時に使える人を増やす”ことが喫緊の課題です。そこで、セコムでは、使える人を増やし、救命率の向上を図るために、AEDの知識や使い方を学べる「セコムAEDスキルアップサービス」を開始し、そのためのAEDインストラクター約300名を養成しています。

セコムはAEDの使用法の習得を促進し「いつでも使える人」を増やし、“AEDがいつでも誰でも使える社会”の実現をめざしていきます。

※総務省消防庁「平成25年版 救急救助の現況」

## 「さがみロボット産業特区協議会」に参加

### 生活支援ロボットの浸透・普及をめざす

「さがみロボット産業特区協議会」は、少子高齢化の進行に伴うさまざまなニーズや、自然災害に対応するために、生活支援ロボットの実用化・普及を進める目的で2013年2月に神奈川県相模原市に誕生し、国の成長戦略の一翼を担うものとして、高い期待を受けています。

セコムの食事支援ロボット「マイスプーン」、屋外巡回監視ロボット「セコムロボットX」など革新的で実用的なロボット開発や、神奈川県「ロボット体験施設相模原」など複数の拠点で「マイスプーン」を常設展示してきた取り組みなどが評価され、神奈川県からの要請を受けて2014年8月から協議会へ参加することとなりました。



食事支援ロボット「マイスプーン」

## ■ その他

- 経済・社会や職業選択を学ぶ体験学習プログラム「ステューデントシティ」「ジョブ・シャドウ」への協力
- 野球を通じて友情と親善の輪を広げる「世界少年野球推進財団」への協賛
- 子どものための世界映画祭「キダーフィルムフェスティバル」への協賛
- スポーツ発展への寄与（マラソン・駅伝、ラグビーなど）
- セコムトラストシステムズ株式の警視庁と連携したサイバー犯罪共同対処



高校生の職業選択をサポートする  
「ジョブ・シャドウ」



子どもの職業体験学習をサポートする  
「ステューデントシティ」

## ■ 地域との共生

- 「社会復帰促進センター（美祢・喜連川）」などの運営を通じた地域貢献
- (株)パスコの災害復旧支援活動
- 東日本大震災復興支援（セコムラガッツによる「ラグビースクール」など）



山口県にある  
「美祢社会復帰促進センター」



セコムラガッツによる  
「ラグビースクール」



# コーポレート・ガバナンス

経営の効率性と透明性を高め、長期にわたって企業価値を向上させるために、コーポレート・ガバナンス（企業統治）の充実を図り、トップマネジメントのイニシアチブのもとコンプライアンス・リスクマネジメント体制の強化と情報開示の徹底などに、積極的に取り組んでいます。

## コーポレート・ガバナンス

セコムでは、コーポレート・ガバナンスの充実を経営上の極めて重要な課題であると位置づけ、「社業を通じ、社会に貢献する」という企業理念の実現に向けて、継続的に収益を上げながら、企業価値を高めていくために、事業活動を律する枠組として、コーポレート・ガバナンス体制を整備しています。

具体的には、取締役会が業務執行その他の会社の意思を決定し、代表取締役社長を中心とする執行役員が業務を執行。そして、監査役および取締役会が内部監査部門などと連携して、取締役および執行役員の職務執行を、監査・監督しています。2013年6月より、複数（2名）の社外取締役を設置し、企業価値向上に向けての提言を期待するとともに相互の監視機能を強化しています。また、5名の監査役



定時株主総会のもよう

のうち3名を社外監査役とし、これら社外取締役および社外監査役の5名を東証の独立役員に指定し、より中立・客観的な立場からの監督・監査を確保し、経営に対する監視機能の強化を図っています。

さらに、ディスクロージャーポリシー\*を掲げて、情報開示の推進などステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを、より一層強化しています。

\*ディスクロージャーポリシー…経営上の重要な情報を開示する方針のこと。

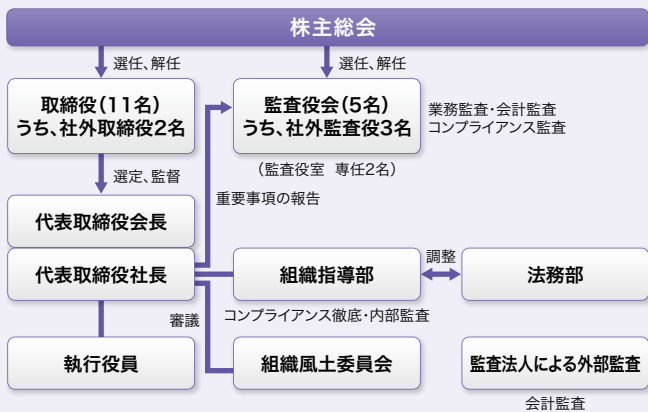
### ● “ALL SECOM”の実現に向けて

お客様のさらなる期待に応えるため、セコムグループの総力を結集させ、既存の事業範囲や事業区分にとらわれずに、“ALL SECOM”でお客様が求めるサービスの創出に取り組んでいます。

このため、セコムの代表取締役社長をはじめ主要な事業セグメントの代表者などが出席し、定期的で開催される「セコムグループ経営会議」においても、コーポレート・ガバナンスのあり方などを討議しています。

## 主な取り組み

### ■ 企業統治の体制



### ■ コンプライアンスの取り組み

- 「セコムグループ社員行動規範」の全社員への貸与と徹底
- 「組織指導部」による監査を通じた「セコムグループ社員行動規範」の遵守徹底
- 「内部統制システムの基本方針」の取締役会決議

- 金融証券取引法に基づく「財務報告に係る内部統制」の有効性評価
- 組織運営の品質向上を図る「内部監査制度」
- セコムグループ各社の監理基準「セコムグループ企業経営基本規定」
- 「グループ会社監理担当」による各社の内部統制有効性評価
- 清冽な組織風土・法令遵守を確保するための各種相談・連絡窓口（「ほっとヘルプライン」「グループ本社ヘルプライン」等）
- 「セコムグループ社員行動規範」の遵守状況の確認や徹底を図る「組織風土委員会」
- 法令遵守のための教育システム、確認テストなど（警備業法、独占禁止法、高圧ガス保安法、下請法、建設業法、廃棄物処理法、労働安全衛生法、電気工事業法、金融商品取引法、特定商取引法、道路交通法等）

### ■ リスクマネジメント

- 強固な情報セキュリティシステムの構築・運用
- プライバシーポリシー（個人情報保護方針）に基づく組織運営・プライバシーマークの取得



## セコムの「コンプライアンス」

セコムでは、第三者の不法・不正行為からお客様の生命・財産を守るセキュリティ事業を成立させるためには、日本国憲法および関係法規に従うだけでなく、法の本質も遵守することが不可欠な要件であると考えています。

セキュリティ事業の大きな特色は、サービスを提供する社員が他を律する立場にある、ということです。すなわち、一人ひとりの社員が他を律する者として、自らも律し、法並びに法の本質を遵守して、誠実に業務を遂行することにより、初めてお客様から信頼され、セキュリティ事業が成立します。そのため、セコムは会社の根本方針として、組織的に法令およびその本質の遵守を一人ひとりの社員に徹底させる努力を続けており、それが多くのお客様の信頼を得て、成長してきました。

近年、コンプライアンスが一層厳しく求められるようになりましたが、セコムは創業以来、コンプライアンスを最重要視した組織運営を行っています。

## リスクマネジメント体制

リスクマネジメントがセコムの事業そのものであると捉え、担当役員は代表取締役社長の統轄のもと自己の担当する事業分野について事業リスクおよび不正リスクを分析・評価し、内規および各種マニュアルを策定しています。

なお、内規、各種マニュアルには、日常的なリスクモニタリング制度に加え、リスクの分析と評価に基づく予防策や

有事の際の迅速かつ適切な情報伝達と緊急態勢などが含まれており、環境の変化を踏まえ修正しています。

### ● 情報セキュリティとプライバシー保護

個人情報を含むお客様の情報を厳正に保持し管理することは、セキュリティ事業にとって極めて重要で、情報セキュリティなしではセコムの事業は成立しません。経営の根幹を成すものとして、コンプライアンスとともに、情報セキュリティを最重要視し、強固な情報セキュリティシステムを構築・運用しています。毎年全社員を対象にe-ラーニングと確認テストを行って基本事項やルールの徹底を図るとともに、個人情報の取り扱い、データの管理、整理整頓や出入管理の点検など、全事業所を対象に本社「組織指導部」が定期的な監査を実施しています。

### ● BCP(事業継続計画)

セコムグループは、24時間365日、間断なく「安全・安心」を守るサービスを提供しており、BCPとして地震、台風などの大規模災害、広域停電、新型インフルエンザなどの感染症の大流行などの際にも事業を継続するための体制および諸規則を定め、設備やシステムを整備しています。

また、社員一人ひとりが災害発生時に適切な行動ができるように、日頃からさまざまな場面を想定した訓練を行っています。

- 全社員を対象とした個人情報保護法の教育および確認テスト
- BCPの策定と設備・システムの整備

#### ▼ 大規模災害時および平時のリスク分類

	リスクの分類	例
大規模災害時	①大規模災害リスク	地震・風水害・火山災害・放射能漏れ等
平時	②コンプライアンスリスク	「セコムの事業と運営の憲法」、「セコムグループ社員行動規範」その他内規違反、法制度の新規、変更（税制、医療制度等）に伴うリスク、法令違反等
	③システムリスク	情報システムの停止、電子データの消滅、大規模停電、広域回線障害、ICT（情報通信技術）に係わるリスク等
	④業務提供に係るリスク	業務を提供するに際して発生するリスク（警備事故、防災事故、設備メンテナンス等）
	⑤事務処理・会計リスク	事務処理、会計処理における誤入力、入力漏れ、引当金の見積ミス等
	⑥その他	外部からの攻撃（テマ・中傷、盗難、テロ等）、企業買収時のリスク、新規システム開発のリスク、その他事業インフラリスク（自社火災、新型インフルエンザ、病気の蔓延等）等

### ■ 株主総会活性化および議決権行使円滑化に関する取り組み

- 株主総会招集通知の早期発送（約3週間前）
- 株主総会招集通知（要約）の英文での提供
- 集中日を回避した株主総会の開催
- 映像を活用した事業報告や経営方針プレゼンテーションなどの分かりやすい株主総会の運営
- 電磁的方法による議決権の行使
- 議決権電子行使プラットフォームへの参加など、機関投資家の議決権行使環境向上に向けた取り組み

### ■ IRに関する取り組み

- IRに関する部署（担当者）の設置
- IR資料の作成とホームページ掲載
- ディスクロージャーポリシーのホームページでの公開
- アナリスト・機関投資家向けの定期的説明会開催
- 海外投資家とのワン・バイ・ワン・ミーティング実施

## お取引先とともに

高品質なサービス・商品を提供するためには、さまざまなサプライヤーの皆様からの協力が不可欠です。

セコムでは、相互理解と法令遵守の精神を重要視し、互いにパートナーシップを強固にし、高品質のサービスを提供するよう努めています。

### ● バリューチェーンマネジメントの取り組み

人権保護や労働安全衛生、環境保全などのCSR課題へバリューチェーン全体で取り組むことが重要であると認識し、2013年にはセコムのサプライヤーの皆様にご協力いただき、環境をはじめとするCSR全般についての調査を行いました。

このCSR調査では、社会的責任に関する国際規格であるISO26000の中核主題などへの取り組み状況を把握するとともに、サプライヤーの皆様が、自社のCSR課題を把握し、取り組みを促進するきっかけとしていただくことも目的としました。

また、環境面では、社外の上流・下流のCO<sub>2</sub>排出量（スコープ3）の算定を行いました。この結果はバリューチェーン全体でのCO<sub>2</sub>削減の基礎情報として活用し、今後もお取引先の皆様と協力してCO<sub>2</sub>削減に努めていきます。

これらの取り組みを継続することにより、バリューチェーン全体のCSRの理解促進と対策強化をさらに進め、CSRリスクの削減を図っていきます。

## 強固なパートナーシップでともに成長を

「テクノ事業本部」では、セキュリティシステムの工事や、建物設備のメンテナンス・補修・改修業務に携わる協力会社の皆様とともに、安全衛生強化をはじめ、さまざまな取り組みを行っています。

2013年10月には、協力会社の経営者・役員の皆様を対象に健全な組織運営やリスク管理を行い、会社組織を持続的に発展させるための「協力会社トップセミナー」を開催しました。協力会社から88名が参加され、外部講師による経営層として考えるべきリスクマネジメントについての講演など、実践的なアドバイスも行われました。



「協力会社トップセミナー」

## ■ 非財務情報開示の取り組み

- CSRレポートの発行
- ホームページへのCSR情報掲載
- 環境省の「情報開示システム試行事業」への参加
- メディア・行政・NPOなどからの調査への回答・情報開示
- ESG\*評価機関とのコミュニケーション

\*ESG…E：環境 (Environment)、S：社会 (Society)、G：企業統治 (Governance)

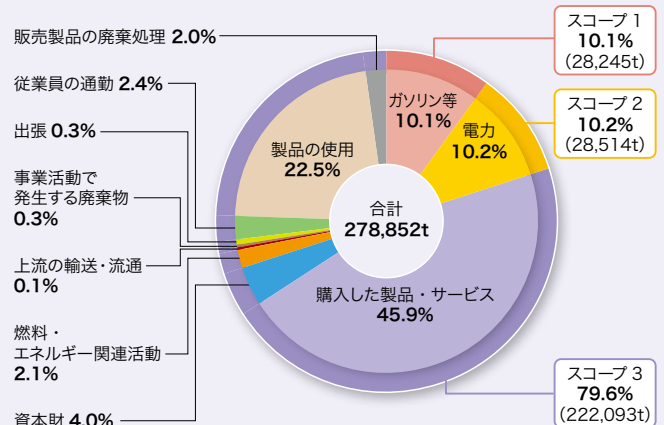
## ■ 知的財産権の保護

- 社員の知的財産権を尊重する「発明取扱規定」の制定、「セコム発明大賞」の授与
- 第三者の知的財産権尊重のための仕組みの構築

## ■ バリューチェーンマネジメント

- サプライヤーへの「CSRアンケート調査」
- サプライヤーと協働したバリューチェーン全体でのCO<sub>2</sub>排出量（スコープ1,2,3）把握と削減
- 省エネ性能や減量化・減容化を追求する「グリーン設計ガイドライン」の制定とサプライヤーへの要請

### ▼ バリューチェーン全体のCO<sub>2</sub>排出量 —セキュリティ事業グループ—



# ステークホルダーの皆様とのコミュニケーション

セコムでは、ステークホルダーの皆様からの情報開示の要請にお応えし、説明責任を果たすため、本レポートやWebサイト、評価機関からの調査票などを通じ、CSR情報の開示を拡充しています。

今後もセコムは、ステークホルダーの皆様とさまざまなコミュニケーションを図り、ご期待にお応えしていきます。

引き続き、皆様の忌憚ないご意見をお聞かせいただければ幸いです。

## ● 環境省「環境情報開示システム」試行事業へ参画

企業の環境に配慮した事業活動を促進するために、金融機関が利用しやすい開示システムを検討する環境省の試行事業に2013年度から参画しています。

## ● 環境評価NPO法人CDPへの回答

CDPによる、企業の温暖化ガス排出に関する情報開示や削減努力の評価は、世界約800の機関投資家が投資情報として活用します。2011年度からセコムはCDP気候変動質問票へ回答しています。

※22ページをご参照ください。



# セコム企業年金基金による「ESG投資」の取り組み

セコムとグループ企業の年金原資を運用・管理し、退職年金や退職一時金の給付を行う「セコム企業年金基金」は、2011年に「国連責任投資原則(国連PRI)」に署名し、「環境」「社会」「ガバナンス」への取り組みに対する評価が高い企業に投資を行う「ESG投資」を行ってきました。

さらに、2014年2月には、金融庁が策定した機関投資家向けのガイドライン「日本版スチュワードシップ・コード」\*に賛同し、責任ある投資家としての責務を果たすとともに経済全体の健全な発展の促進に貢献していくことを表明し、より積極的に「ESG投資」に取り組んでいくこととなりました。

\*「日本版スチュワードシップ・コード」…イギリスで機関投資家向けに定められた規範「スチュワードシップ・コード」を参考に、金融庁が『責任ある機関投資家の諸原則』として発表したもので、機関投資家が、投資先企業の持続的成長に貢献するよう、その事業内容や企業統治に関する対話を適切に行うことなどを求めています。

『ESG』の評価の高い企業への投資は、『社会にとって正しいか』を判断基準とするセコムの理念に合致するものであるほか、株式の配当が安定しており、収益が安定する傾向があります。年金基金が安定した投資収益を受け取り、年金制度の継続性が高まることで、社員や年金受給者の老後の生活に安定と安心を提供することにつながります。

セコム企業年金基金は、今後も『ESG投資』によって安定した資金を投資先企業に供給し、『日本版スチュワードシップ・コード』に取り組んでいくことで、責任ある投資家としての責務を果たすとともに、経済全体の健全な発展の促進に貢献していきます。

セコム企業年金基金 常務理事  
八木博一



# セコムグループの概要

セコムは、1962年に日本初の警備保障会社として創業しました。

その後、1966年に日本初の企業向けオンライン・セキュリティシステム、1981年にご家庭向けのオンライン・セキュリティシステム「セコム・ホームセキュリティ」、2001年には個人を対象とした位置情報提供システム「ココセコム」など、時代のニーズにいち早く応えるさまざまなシステムやサービスを開発し、幅広いセキュリティサービスの普及に取り組んでいます。

セコムは、セコムならではの社会に不可欠な「安全・安心」で「快適・便利」なシステムやサービスを“ALL SECOM”で提供することにより、お客様から「困ったときはセコム」と頼りにされ、お客様の期待に応えながら、「気づいたらセコム」と言われるような企業グループをめざしています。

## セコム株式会社 会社概要

会社名 ▶ セコム株式会社 SECOM CO., LTD.

本社所在地 ▶ 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1丁目5番1号

設立年月日 ▶ 1962年(昭和37年)7月7日

創業者 ▶ 取締役最高顧問 飯田 亮

代表者 ▶ 代表取締役会長 前田 修司  
代表取締役社長 伊藤 博

資本金 ▶ 663億円(2014年3月31日)

上 場 ▶ 東証一部

グループ社員総数 ▶ 53,567名(2014年3月31日)

連結決算 ▶ 売上高 8,222億2,800万円(2014年3月期)

経常利益 1,266億7,700万円(同上)

当期純利益 698億7,600万円(同上)



東京原宿にあるセコム本社ビル

## 主なグループ企業

### ●セキュリティ事業

セコム株式会社  
セコム上信越株式会社  
セコム北陸株式会社  
セコム山梨株式会社  
セコム三重株式会社  
セコム山陰株式会社  
セコム高知株式会社  
セコム宮崎株式会社  
セコム琉球株式会社  
東洋テック株式会社  
セコムジャスティック株式会社  
セコムスタティック北海道株式会社  
セコムスタティック東北株式会社  
セコムスタティック関西株式会社  
セコムスタティック西日本株式会社  
福岡流通警備保障株式会社  
JR九州セコム株式会社  
株式会社エリアサービス  
日本安全警備株式会社  
株式会社日本緊急通報サービス  
名鉄セコム株式会社  
株式会社メリアン  
セコムホームサービス株式会社

株式会社くらしテール  
セコム工業株式会社  
日本原子力防護システム株式会社  
オーテック電子株式会社  
セコムアルファ株式会社  
社会復帰サポート美祢株式会社  
セコム美祢セキュリティ株式会社  
社会復帰サポート喜連川株式会社  
セコム喜連川セキュリティ株式会社

### ●防災事業

能美防災株式会社  
ニッタン株式会社

### ●メディカル事業

セコム医療システム株式会社  
セコムフォート株式会社  
セコムフォートウエスト株式会社  
株式会社プライムステージ  
セコムフォート多摩株式会社  
株式会社アライブメディケア  
株式会社マック  
セコムメディカルリソース株式会社

### ●保険事業

セコム損害保険株式会社  
セコム保険サービス株式会社

### ●地理情報サービス事業

株式会社パスコ

### ●情報通信事業

セコムトラストシステムズ株式会社  
株式会社アット東京

### ●不動産事業

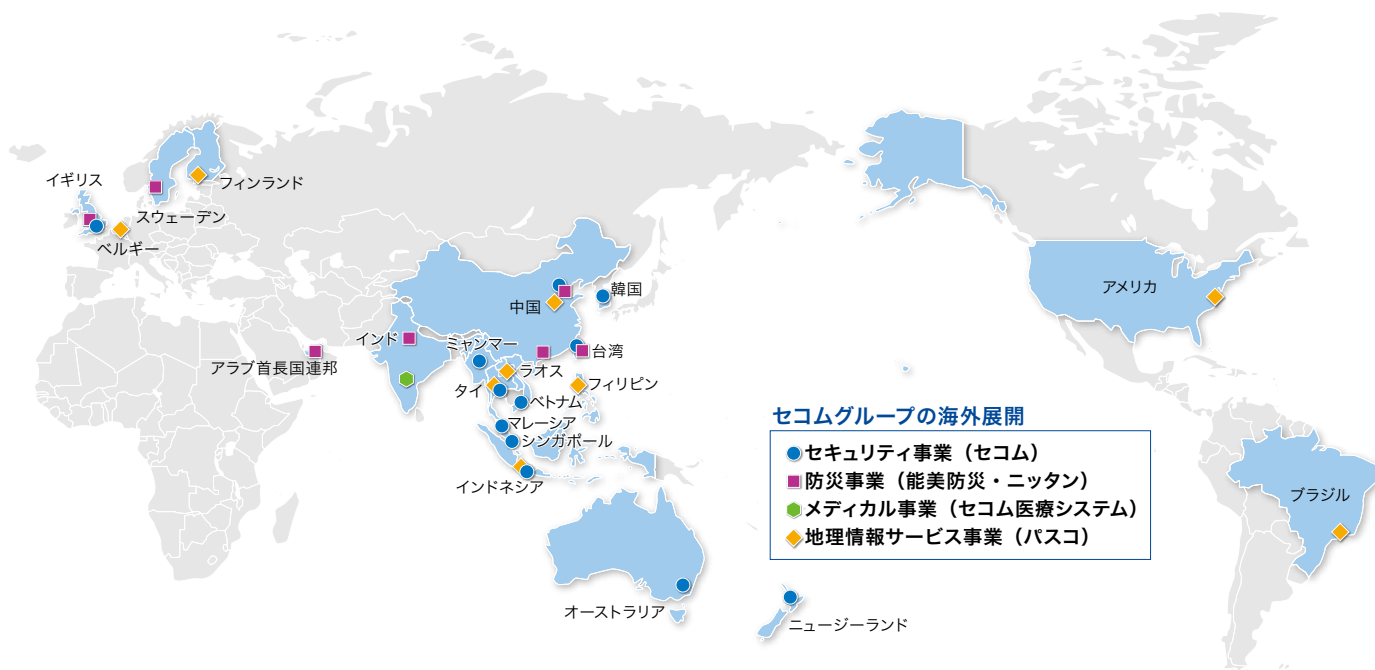
セコムホームライフ株式会社  
ホームライフ管理株式会社  
株式会社荒井商店

### ●国際事業

中興保全股份有限公司(台湾)  
株式会社エスワン(韓国)  
西科姆中国有限公司  
大連西科姆電子安全有限公司  
上海西科姆保安服務有限公司  
北京京盾西科姆電子安全有限公司  
青島西科姆電子安全有限公司

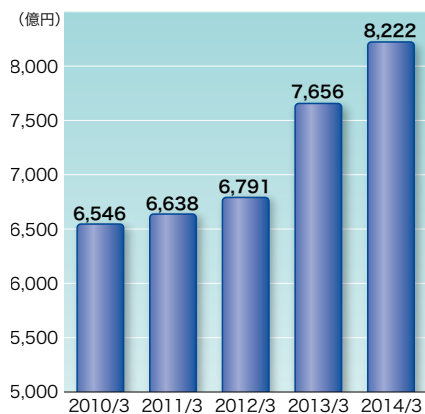
広東金鵬西科姆電子安全有限公司  
福建西科姆電子安全有限公司  
陝西西科姆電子安全有限公司  
四川西科姆電子安全有限公司  
浙江西科姆安防系統科技有限公司  
遼寧西科姆安全防犯有限公司  
西科姆津盾(天津)安全防犯有限公司  
西科姆(天津)物業管理有限公司  
上海能美西科姆消防設備有限公司  
上海冠林西科姆智能科技有限公司  
タイセコムピタキイ株式会社  
セコムマレーシア株式会社  
セコムシンガポール株式会社  
セコムインドネシア株式会社  
セコムバヤンカラ株式会社(インドネシア)  
セコムベトナムセキュリティサービス株式会社  
ミャンマーセコム株式会社  
セコムPLC(英国)  
セコムオーストラリア株式会社  
セコムガードオールNZ株式会社(ニュージーランド)  
ウェステック・セキュリティ・グループInc.(米国)

## 海外展開



## 連結決算 業績ハイライト

### ▼ 売上高

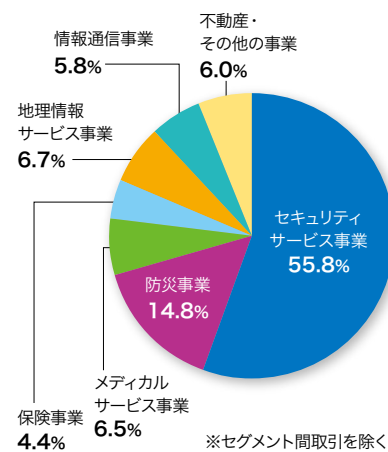


### ▼ 事業別売上高内訳 2014年3月期

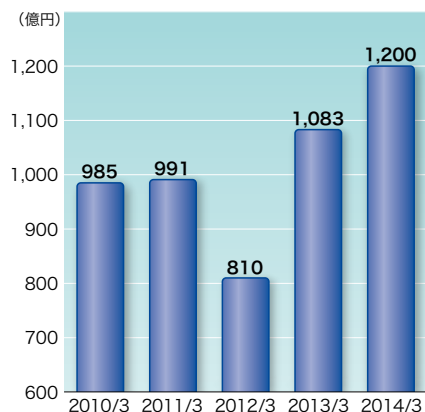
(単位: 億円)

事業別売上高*	2013年3月期	2014年3月期
セキュリティサービス事業	4,320	4,591
防災事業	1,141	1,220
メディカルサービス事業	480	538
保険事業	351	357
地理情報サービス事業	511	546
情報通信事業	300	477
不動産・その他の事業	549	490
連結売上高	7,656	8,222

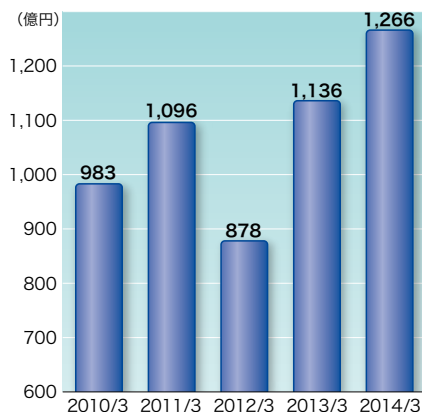
※セグメント間取引を除く



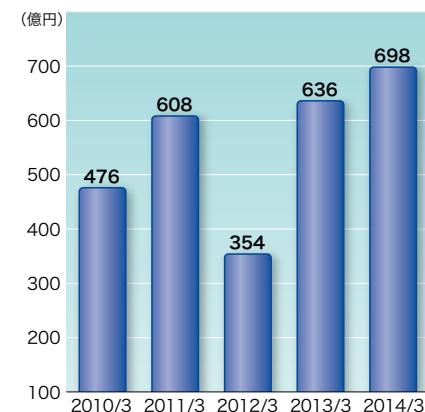
### ▼ 営業利益



### ▼ 経常利益



### ▼ 当期純利益



信頼される安心を、社会へ。

**SECOM**

**セコム株式会社**

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-5-1  
<http://www.secom.co.jp/>